

斜里・羅臼地区エゾシカ誘引捕獲 森林被害緊急対策事業（管理型捕獲） 報告書



令和8(2026)年3月
北海道森林管理局

目次

| | |
|---|----|
| 報告書概要 | 1 |
| 1. はじめに | 4 |
| 2. 業務の実施方法 | 5 |
| 2-1. 業務手法の概要..... | 5 |
| 2-2. 事業の実施場所及びわなの稼働状況..... | 6 |
| 2-3. 自動撮影カメラによるエゾシカの生息状況調査の実施方法（詳細） | 10 |
| 2-4. くくりわなによる捕獲の実施方法（詳細） | 12 |
| 3. 業務実施結果 | 16 |
| 3-1. 生息状況調査業務..... | 16 |
| 3-2. エゾシカ捕獲業務..... | 20 |
| 4. 考察 | 27 |
| 4-1. 越冬期間外のエゾシカの生息状況について..... | 27 |
| 4-2. くくりわなについて、より効果的に捕獲を行うための課題と解決策..... | 27 |
| 4-3. 次年度以降の捕獲計画に関する課題、提案..... | 29 |
| 参考文献 | 35 |
| 作業実施状況等の記録写真（抜粋） | 36 |

報告書概要

1. 業務名

斜里・羅臼地区エゾシカ誘引捕獲森林被害緊急対策事業（管理型捕獲）

2. 業務の背景・目的

本事業は、知床半島に高密度で生息するエゾシカの採食圧により、森林の多面的機能の発揮等に対する多大な影響が懸念されるため、エゾシカの個体数の調整を図り、森林被害を低減することを目的とする。

また本事業は、関係機関により策定された「第4期知床半島エゾシカ管理計画」における知床世界自然遺産の隣接地域の管理の一環として、「知床世界自然遺産地域科学委員会」およびその下部組織である「エゾシカワーキンググループ」等での助言を踏まえて実施されるものである。事業実施地域におけるエゾシカの生息状況等を把握するとともに、捕獲手法について検証し、次年度以降の捕獲計画に資することとする。

3. 業務の実施体制

本業務は、林野庁北海道森林管理局からの委託事業として、公益財団法人 知床財団が実施した。

- ・実施期間：令和7（2025）年3月13日（着手3月25日）～令和8（2026）年3月6日
- ・捕獲範囲：斜里郡斜里町 網走南部森林管理署管内 1376, 1377 林班
（オシンコシン）－図1参照
目梨郡羅臼町 根釧東部森林管理署管内 204, 208, 209 林班
（春苺古丹）－図2参照
- ・捕獲目標頭数：80頭（うち斜里町60頭、羅臼町20頭）
- ・実施体制：事業管理責任者 松林 良太（公益財団法人知床財団事業部保護管理担当参事）ほか23名により実施。うち捕獲従事者15名、作業従事者8名。

4. 業務の手法・概要

令和7（2025）年12月19日～令和8（2026）年2月6日に、くくりわな72基（斜里町側46基、羅臼町側26基）によるエゾシカの捕獲を実施し、同時に自動撮影カメラ（計7台）を設置してエゾシカの生息状況等を把握した。なお、羅臼町側の春苺古丹地区では餌による誘引を令和7（2025）年12月1日から捕獲に先立って開始しており、カメラ設置も12月1日に実施した。斜里町側の業務実施場所については、捕獲作業効率化のため便宜的にオシンコシン（B,C）の2地区に区分した。なお、捕獲を実施した期間には、荒天の影響等で捕獲を一時停止した日を含む。

また捕獲とは別に、令和7（2025）年3月から6月にかけて自動撮影カメラ6台（斜里町側3台、羅臼町側3台）を捕獲場所に設置し、越冬期間外におけるエゾシカの生息状況及びヒグマやキツネ等の野生動物の生息状況を調査した。

・業務場所別の誘引期間および誘引捕獲期間（実施結果）：

○誘引期間

春苺古丹（羅臼町） 令和7年12月1日～令和7年12月12日

○誘引捕獲期間

オシンコシン（斜里町） 令和8年1月7日～令和8年2月6日 ※1

春苺古丹（羅臼町） 令和7年12月19日～令和7年12月25日

令和8年1月6日～令和8年1月23日 ※1

※1実施場所付近におけるヒグマの活動の有無の調査、荒天による捕獲作業の一時停止日を含む。

・捕獲したエゾシカに関する記録：

全個体について性別、年齢の簡易的区分（0歳・1歳以上）、後足長、処理方法（電気もしくは銃による止めさし後施設処理）、処理先（利活用施設名または利活用不適のため廃棄）を記録した。その他にも可能な範囲でオスの場合は角尖数を個体ごとに記録した。

5. 実施結果

令和7（2025）年3月12日付けで委託契約を締結後、同年3月22日に委託事業計画書等を提出した。その後必要な物品の購入手続きや捕獲許可申請のための従事者名簿作成等の準備作業を行った。また、3月25日付で貸与品の一部（生息状況調査用の自動撮影カメラ6台）の支給を受け、事業に着手した。

また、斜里町側では令和7（2025）年4月4日から6月5日、羅臼町側では令和7（2025）年3月27日から6月20日の間に、捕獲地域内で自動撮影カメラを60日以上稼働させ、当該期間の撮影データよりエゾシカの生息状況を調査した。

春苺古丹地区では、令和7（2025）年12月1日に自動撮影カメラを設置し、同月2日から餌による誘引を開始した。同年12月19日にくくりわなを設置し、翌20日から25日まで捕獲を実施した。令和8（2026）年は1月6日からくくりわなを再度稼働させ、同月23日まで捕獲を実施した。

オシンコシン地区では、令和8（2026）年1月7日にくくりわなを設置し、翌8日から捕獲を開始した。同月8日に自動撮影カメラを設置し、同年2月6日まで捕獲を実施した。

この誘引期間及び誘引捕獲期間中に、斜里側では3回、羅臼側では6回の除雪業務を実施した。

本事業により、斜里町側のオシンコシン地区で89頭、羅臼町側の春苺古丹地区で32頭の合計121頭のエゾシカを捕獲した。雌雄別の内訳はメス60頭・オス61頭であり、生息

個体数を確実に減少させるために重要とされるメス成獣の捕獲数は42頭（34.7％）であった。地区別の捕獲数等は、後記の表Aのとおりである。

表A. 本事業で捕獲したエゾシカの内訳

| 捕獲実施場所 (地区名) | 捕獲個体内訳 | | | | 合計 |
|-----------------|----------|----|----|----------|-----|
| | メス 成獣 | 0歳 | | オス 成獣 | |
| | | メス | オス | | |
| ①オシンコシンB | 19 | 7 | 8 | 9 | 43 |
| ②オシンコシンC | 11 | 6 | 16 | 13 | 46 |
| ③春苅古丹 | 12 | 5 | 5 | 10 | 32 |
| 合計 | 42 | 18 | 29 | 32 | 121 |

※地区名のアルファベットは、捕獲したエゾシカを地区別にマーキングするために付したものと

くくりわなによる捕獲回数は、斜里町側89回、羅臼町側32回の計121回であった。

捕獲個体の処理方法は、電気による止めさし後の利活用施設処理が92頭、廃棄処理が29頭（うち利活用不適によるものが3頭、利活用施設受入上限によるものが26頭）であった。

エゾシカの誘引用の餌には圧縮マメ科牧草（ルーサンハイボール）を使用した。原則24個単位での販売のため、72個を購入し、うち59.5個（斜里側32.5個・羅臼側27個）、約1,600kgを撒布して消費した。なお、見回り・給餌回数は表B-1、B-2のとおりである。

表B-1. 本事業における春苅古丹地区の誘引のみの期間及び給餌回数の実績値

| 誘引箇所 | 誘引期間 | 見回り回数 | 給餌回数 |
|------|--------------|-------|------|
| 春苅古丹 | 12月1日～12月12日 | 4 | 4 |

※ただし、12月16日にも給餌は別途実施（誘引期間終了後から誘引捕獲期間開始前までの期間）

表B-2. 本事業における各わなの見回り・給餌回数の実績値

| 設置箇所 | 誘引捕獲期間 | 見回り回数 | 給餌回数 |
|--------|-----------------------------|-------|------|
| オシンコシン | 1月7日～2月6日 | 29 | 14 |
| 春苅古丹 | 12月19日～12月25日 1月6日～1月23日 | 22 | 20 |

1. はじめに

知床半島にはエゾシカが高密度で生息しており、平成17（2005）年の世界自然遺産地域への登録後は、エゾシカの採食圧による環境への影響を緩和すべく、知床世界自然遺産地域科学委員会エゾシカワーキンググループ等における議論を受けて、各行政機関が半島内各地で個体数調整事業を実施している。国立公園内（遺産地域内）においては、環境省が平成21（2009）年から個体数調整事業を行っている。

北海道森林管理局では、平成22～24（2010～2012）年度に半島東側の春苺古丹地区で捕獲事業を実施し、平成25（2013）年度からは半島西側の遺産地域に隣接するウトロ地区での捕獲事業を開始した。さらに平成26（2014）年度から遠音別地区および真鯉地区においても捕獲事業を開始した。また平成29（2017）年度には5年ぶりに春苺古丹地区での捕獲を実施し、本年度で再開10年目となる。

本事業は、知床半島に高密度で生息するエゾシカの採食圧により、森林の多面的機能の発揮等に対する多大な影響が懸念されるため、エゾシカの個体数の調整を図り、森林被害を低減することを目的とする。本年度の捕獲にあたっては、エゾシカ80頭（うち斜里町60頭、羅臼町20頭）を捕獲目標頭数とした。また本事業は、関係機関により策定された「第4期知床半島エゾシカ管理計画」における隣接地域の管理の一環として、「知床世界自然遺産地域科学委員会」およびその下部組織である「エゾシカワーキンググループ」等での助言を踏まえて実施されるものである。事業実施地域におけるエゾシカの生息状況等を把握するとともに、捕獲手法について検証し、次年度以降の捕獲計画に資することとする。

2. 業務の実施方法

2-1. 業務手法の概要

本事業では、斜里町側のオシンコシン地区と羅臼町側の春苺古丹地区の両地区について、越冬期間外におけるエゾシカの生息状況調査と、冬期におけるエゾシカの捕獲を行った。本事業全体の実施工程は表1に示した。

生息状況調査では、オシンコシン地区では令和7(2025)年4月4日から6月5日の期間、春苺古丹地区では同年3月27日から6月20日の期間に自動撮影カメラ(機種名:ハイカム LT4G/販売元:株式会社ハイク、北海道旭川市)を設置し、エゾシカやその他の野生動物について撮影頭数や撮影頻度等の生息状況の確認に資する情報を収集した。

エゾシカの捕獲については、令和7(2025)年12月19日から令和8(2025)2月6日までの期間にくくりわなによる誘引捕獲作業を実施した。作業内容はエゾシカの痕跡や発見状況等とともに毎回記録し、業務日誌等を作成した。当業務への従事にあたっては、捕獲従事者15名および作業従事者8名のローテーションにより、常に複数人(原則1チーム2~4名)で捕獲等の作業を実施できる体制を確保した。作業を安全に進めるため、安全管理規定および緊急連絡体制図を定め、業務実施期間中に適宜確認した。また、各わなの設置箇所周辺には自動撮影カメラ(機種名:ハイカム SP108-Jまたは同 SP2、同 LT4G/販売元:株式会社ハイク、北海道旭川市)計7台を設置し、エゾシカの生息状況の把握に努めた。

本業務で捕獲したエゾシカは、斜里町側では北海道が認証する「エゾシカ肉処理施設」の1つである株式会社知床エゾシカファーム(所在地:斜里町)、羅臼町側ではエゾシカ肉をペットフードに加工している株式会社IN-U(所在地:中標津町)に原則として引き渡し、適切な利活用(有効活用)を行った(以下、株式会社知床エゾシカファームおよび株式会社IN-Uを「有効活用施設」とする)。捕獲個体が既に死亡していた場合や、有効活用施設の休業などで捕獲個体を利活用に供することができない場合は、一時保管後に廃棄物として運搬し、処理事業者(北海レンダリング協同組合)に引き渡し、有償で適正な処理を依頼した。これは斜里町および羅臼町の廃棄物処理施設では、シカの死体を処理出来ないためである。

なお、各業務については、知床森林生態系保全センターの監督職員(以下、監督職員とする)と随時協議を行いながら進行した。

表 1. 本事業の実施工程表

| わな名 | 作業内容 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | ～ | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|-----------------|-------------------|----|----|----|----|----|---|-----|----|----|----|----|
| オシンコシン くくりわな | センサーカメラの 設置・稼働 | | ←→ | | | | | | ←→ | | | |
| | 誘引(給餌) | | | | | | | | ←→ | | | |
| | 見回り・捕獲 | | | | | | | | ←→ | | | |
| 春苺古丹 くくりわな | センサーカメラの 設置・稼働 | | ←→ | | | | | ←→ | | | | |
| | 給餌(誘引) | | | | | | | ←→ | | | | |
| | 見回り・捕獲 | | | | | | | ←→ | | | | |
| | 報告書作成 | | | | | | | | | ←→ | | |

2-2. 事業の実施場所及びわなの稼働状況

本事業におけるエゾシカ生息状況調査及びエゾシカ捕獲作業の実施範囲は、知床半島の西側に位置する北海道斜里郡斜里町の国有林（網走南部森林管理署管内 1376、1377 林班、図 1）および同半島東側の北海道目梨郡羅臼町の国有林（根釧東部森林管理署管内 204、208、209 林班、図 2）であり、これらの地域は関係行政機関によって策定された「第 4 期知床半島エゾシカ管理計画」において「隣接地域」に区分されている（図 3）。斜里町側の国有林 1376 林班と 1377 林班は、国指定鳥獣保護区内であるため狩猟は行われていないが、隣接するエリアでは狩猟や他事業によるエゾシカの管理捕獲が行われている。なお、羅臼町側の国有林（204、208、209 林班）の大半は狩猟禁止区域となっている。

上記の事業実施範囲は、斜里町側を「オシンコシン地区」、羅臼町側を「春苺古丹地区」と呼称されており、「オシンコシン地区」はさらにくくりわなの設置範囲（捕獲場所）として「オシンコシン B」「オシンコシン C」の 2 地区を設定した（図 4、以下、これらの 2 か所について言及する際は名称のみ表記する）。この 2 地区は 1970 年代後半まで整備されていた町道の廃止後、崩落により道が寸断されており、オシンコシン B はウトロ高原側から、オシンコシン C はオシンコシン展望台へ向かう町道からアクセスする必要がある。このため 2 地区の直線距離は 2km 程度だが、乗用車での移動距離は 12km に及ぶ。エゾシカの生息状況調査は、オシンコシン B に 1 台、オシンコシン C に 2 台、春苺古丹地区に 3 台の自動撮影カメラを設置して実施した（表 2、図 4、図 5）。エゾシカの捕獲作業のため、オシンコシン地区で 46 基、春苺古丹地区で 26 基のくくりわなを稼働させた（表 2）。なお、春苺古丹地区の事業実施範囲のうち、春苺古丹川右岸においては、他の野生動物種等への影響を考慮し、捕獲作業を実施しなかった。

くくりわな計 72 基は、エゾシカの生息状況や捕獲状況に合わせて適宜移設した（表 2、図 4、図 5）。また、監督職員と協議の上、くくりわなの見回りは土曜日と日曜日にも実施することとし、わなの稼働を止めずに捕獲を継続するスケジュールとした。捕獲終了の 2 月 6 日には全てのくくりわなの稼働を停止し、翌日までに全て撤去した（表 3）。



図 1. 本事業の斜里町側における実施範囲図。網走南部森林管理署管内 1376 林班および 1377 林班（黄色に塗られた範囲）

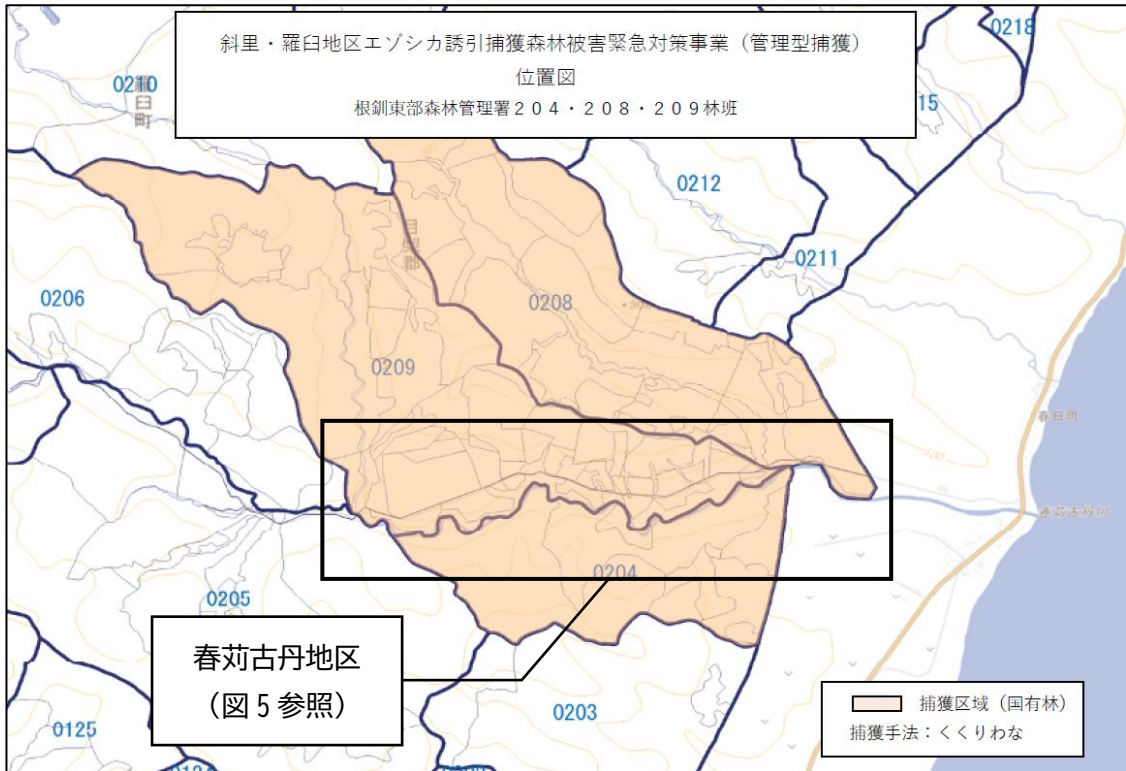


図 2. 本事業の羅臼町側における実施範囲図。根釧東部森林管理署管内 204, 208 および 209 林班（黄色に塗られた範囲）

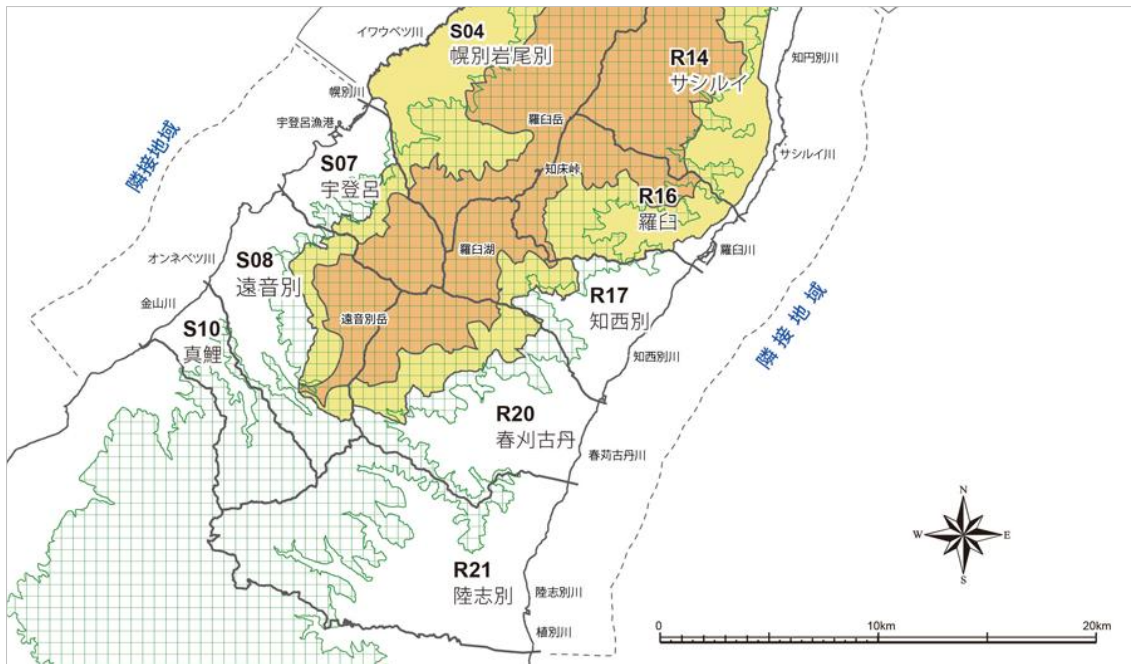


図3. 本事業の実施範囲の「知床半島エゾシカ管理計画」における位置づけ。「隣接地域」のモニタリングユニット「S07 宇登呂」「S08 遠音別」「R20 春苺古丹」に相当する

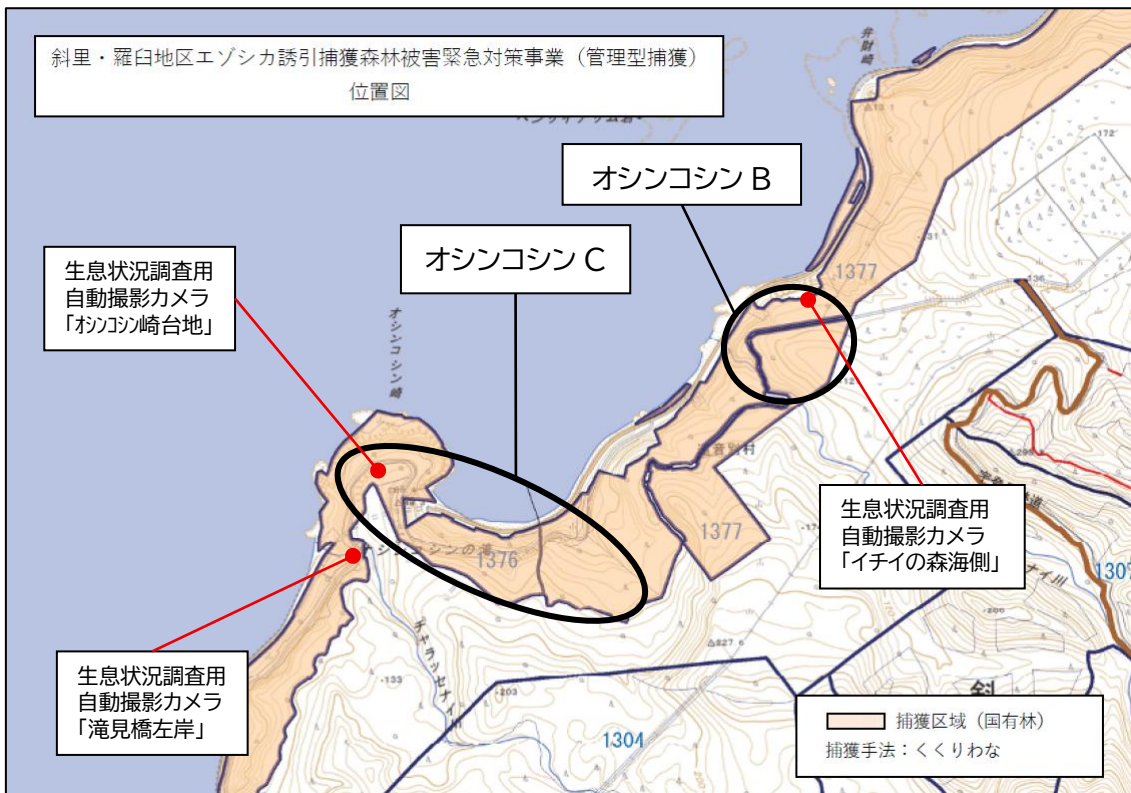


図4. 斜里町のオシニコシン地区におけるくくりわな設置範囲の概要（黒丸内）

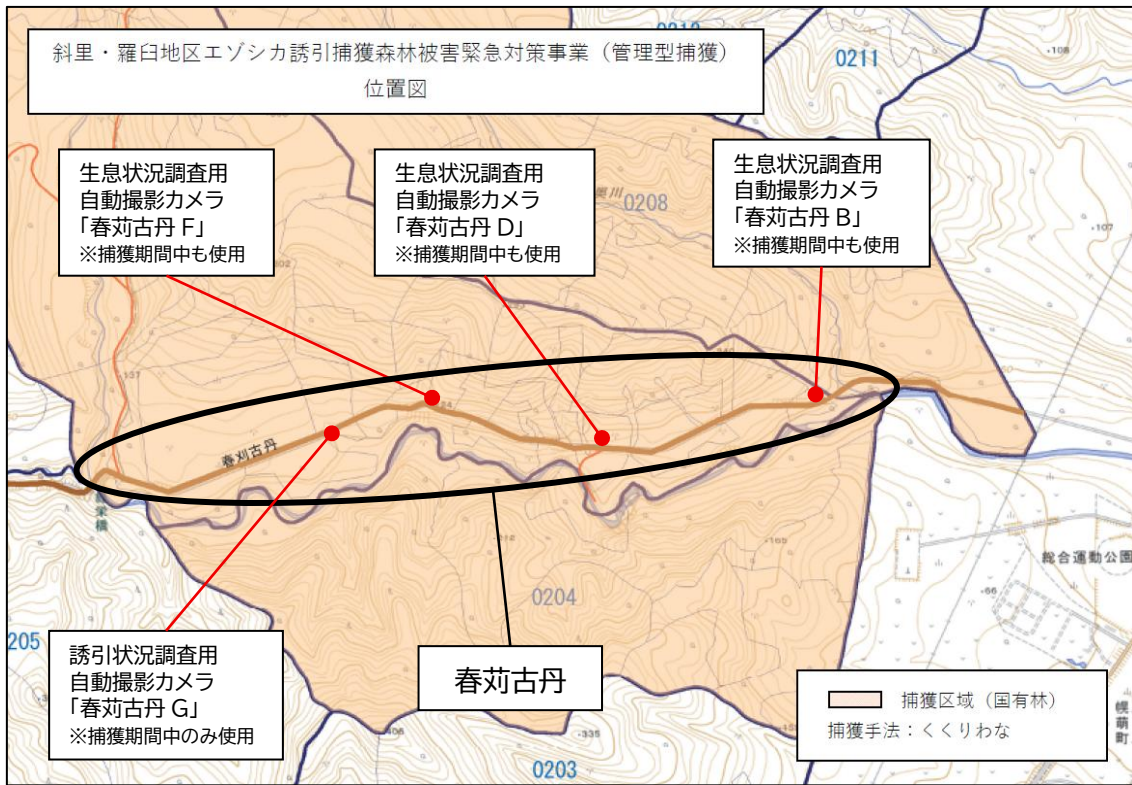


図 5. 春苺古丹地区における生息状況調査用自動撮影カメラ及びくくりわなの設置範囲の概要（黒丸内）

表 2. 捕獲実施地区ごとのカメラ及びわなの設置数

| 捕獲実施地区 | 行政区分 | カメラの設置数(台) | わなの設置数(基) |
|----------|------|------------|-----------|
| オシンコシン B | 斜里町 | 1 | 15~25 |
| オシンコシン C | 斜里町 | 2 | 15~27 |
| 春苺古丹 | 羅臼町 | 3 | 26 |

表 3. 各捕獲実施地区における誘引開始日、捕獲開始日、捕獲終了日および稼働日数

| 捕獲実施地区 | 誘引開始日 | 捕獲開始日 | 捕獲終了日 | わな停止日数 | 稼働日数 | 備考 |
|----------|-------|-------|-------|--------|------|------------------------------------|
| オシンコシン B | 1/6 | 1/7 | 2/6 | 1 | 30 | |
| オシンコシン C | 1/6 | 1/7 | 2/6 | 9 | 22 | |
| 春苺古丹 | 12/1 | 12/19 | 1/23 | 12 | 24 | 1月21日は荒天により見回りはできなかったが、わなは稼働を続けていた |

2-3. 自動撮影カメラによるエゾシカの生息状況調査の実施方法（詳細）

生息状況調査において、オシンコシン地区では令和 7（2025）年 4 月 4 日から 6 月 5 日までの 62 日間、春苺古丹地区では令和 7（2025）年 3 月 27 日から 6 月 4 日までの 69 日間（一部カメラは動作不良により撮影失敗したため、6 月 20 日までの 85 日間に延長）にかけて、自動撮影カメラを 3 台ずつ設置・稼働した。自動撮影カメラの設定は 6 台すべて「静止画モード撮影：1 枚、センサー感度：中、センサーディレイ：1 時間、タイムラプス 10 分」に統一した。この設定では、10 分おきに必ず画像が撮影されるため、有効撮影範囲において撮影対象が滞留しがちな場合（採餌や給水の拠点である場合など）、は写りこみ回数が多くなり、滞留しない場合（移動の通過点に過ぎない場合など）は写りこみ回数が少なくなる。

自動撮影カメラの画角は、基本的に奥行き 20m 程度が有効撮影範囲となるよう設定したが、オシンコシン地区の「滝見橋左岸」については、オシンコシンの滝の左岸側にある護岸法面（以下、「滝見橋左岸法面」と表記）が画角に入るよう設定した（図 6）。これは、毎年 4 月から 5 月にかけて、当該場所で採餌するシカが多数目撃されていたことに基づくものである。分析の際には、この法面で採餌しているシカについては取り扱いを分けた。

自動撮影カメラの設置期間中、カメラの電池交換及び SD カードの交換、周辺の草刈りについてオシンコシン地区ではのべ 2 回、春苺古丹地区では 8 回実施した。春苺古丹地区では自動撮影カメラの設置地点において携帯電話電波が届かず IoT 連携機能が使えないことや、カメラの動作不良により設置期間が延長となったため、カメラの状態確認及びデータの確認・回収はオシンコシン地区よりも高い頻度で実施することとなった。

撮影された画像データは目視で 1 枚ずつ確認し、写り込んでいる鳥獣の種類ごとに撮影頭数や RAI（Relative Abundance Index、撮影頻度指数：総撮影個体数／カメラ稼働日数）を集計した。撮影された鳥獣のうち、エゾシカについては、雌雄別や撮影時間帯別など、より詳細な集計を実施した。なお、雌雄判別が困難なものや幼獣は雌雄別の集計からは除外した。



図 6. 自動撮影カメラ「滝見橋左岸」の画角、青枠で示した範囲が「滝見橋左岸法面」として取り扱いを分けた範囲に該当する。橙枠は「法面」の一部を拡大した画像

2-4. くくりわなによる捕獲の実施方法（詳細）

春苺古丹地区では令和7（2025）年12月1日から、くくりわなの設置からおおよそ2週間先行して餌による誘引を開始した。オシンコシン地区では、くくりわなの設置直前にあたる令和8（2026）年1月6日に誘引を開始した。誘引用の餌には圧縮マメ科牧草（ルーサンハイボール）を用い、エゾシカが滞留するようにくくりわなの設置地点や付近の獣道上に餌を撒布した。エゾシカの動向を確認するための自動撮影カメラは、春苺古丹地区では令和7（2025）年12月1日、オシンコシン地区では令和8（2026）年1月8日にそれぞれ設置した。

くくりわなの稼働についてはヒグマの活動確認調査を行った後に一斉に開始することとし、春苺古丹地区では誘引期間を終えた令和7（2025）年12月19日に、オシンコシン地区では令和8（2026）年1月7日に設置した。くくりわな設置以後は、捕獲確認のための見回りを原則として毎日実施し、エゾシカの生息状況やわな付近での滞留状況を痕跡やカメラ画像から確認しつつ、毎日または1～2日おきに誘引餌の補充を行った。オシンコシン地区では令和8（2026）年2月6日にくくりわな及び自動撮影カメラを停止し、春苺古丹地区では令和8（2026）年1月23日に全てのくくりわなを停止、翌24日にはすべての自動撮影カメラを停止した。

くくりわなは、有限会社栄工業製の足くくりわな（商品名：栄ヒルズ F type）（以下、筒式くくりわな）58基、有限会社ヒットビジネス製の足くくりわな（商品名：アニマルヒット5）（以下、板式くくりわな）14基の合計72基を使用した。両わなは基本的に踏み板部分と、足をくくるワイヤー部分の2つの部品に大きく分かれており、ワイヤーの一方の末端を立ち木などの移動しないものに固定し、もう一方を踏み板部にセットして地面または雪面に設置する。対象動物が踏み板を足で踏み抜くことにより、踏み板にセットされていたワイヤーがバネの力で締まり、足をくくるという仕組みになっている。

筒式くくりわなの踏み板は、内筒と外筒から構成される高さ16cmの円筒になっており、設置には雪を16cm程度掘削する必要がある（図7～図9）。そのため、本タイプのくくりわなは積雪の深い場所での設置に適しており、積雪の浅い場所での設置には適さない。一方、板式くくりわなの踏み板は高さ約2cmの板状のため（図10）、積雪の浅い場所では設置に問題ないが、積雪の深い場所では踏み板自体が雪に沈んでしまう場合がある。このため、積雪の深い場所では筒式くくりわなを使用し、積雪の浅い場所では板式くくりわなを使用した。

くくりわなは、足跡や食痕等エゾシカの痕跡が多い獣道上に主に設置した。また、捕獲時に安全な作業スペースを確保できる場所を可能な範囲で選定し、かつ捕獲後の搬出が困難である場所を避けて設置した。エゾシカによる獣道の利用状況が変化した場合や捕獲頻度が低下した場合には、エゾシカの痕跡がより多い場所へ適宜くくりわなを移設した。林道や町道の除雪区間よりも奥にわなを設置する場合は、スノーモービルを利用して移動時間の短縮および捕獲個体運搬の労力の軽減を図った。

わなの設置期間中のエゾシカの出現状況を把握するため、わな設置場所付近に自動撮影カメラを設置した。自動撮影カメラの設定はオシンコシン地区についてはわなの設置や餌を撒布する範囲が広がったことからタイムラプス優先で「静止画モード撮影：1枚、センサー感度：中、ディレイ：30分、タイムラプス1時間」、春苺古丹地区についてはわなの撒布範囲が狭く、過去の結果からシカの行動範囲が大きく移動する可能性があったことから、センサー優先で「静止画モード撮影：1枚、センサー感度：中、ディレイ：5分、タイムラプス4時間」とした。

見回りは原則として毎日実施し、くくりわなによる捕獲が確認された場合は、2人1組でロープの輪にエゾシカの頭部を通した後、ロープを引き締めたのちに頭部を牽引して立木に保定しエゾシカを静止させ、原則として電気止めさし機を用いて止め刺しを行った。なお、上記方法による保定が困難な場合は、銃器による止め刺しを行うこととしたが、本事業において銃器を必要とする状況は発生しなかった。

捕獲個体については、個体コードを付したうえで性別、年齢の簡易的区分（0歳、1歳以上）、後足長、処理方法（電気止めさし後施設処理）、処理先（利活用施設名または利活用不適のため廃棄）、オスの場合は可能な範囲で角の尖数を個体ごとに記録した。記録事項を整理した後、カラースプレーによる個体コード等のマーキングをして記録写真を撮影し、確認用の尾を採集した後に利活用施設に引き渡した。捕獲したエゾシカがキツネ等による食害を受けたり、見回り前に死亡していたりといった利活用できない状態だった場合や、利活用施設側の都合で引き渡せなかった場合は、死体を一時保管後、廃棄物として処理事業者に引き渡し、有償で処理を依頼した。

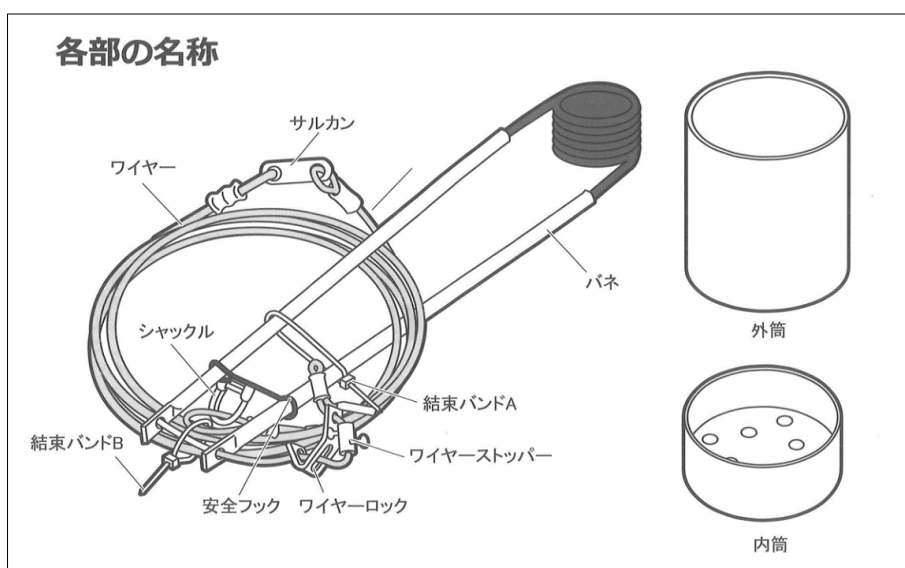


図7. 筒式くくりわな（栄シルズ F type）の各部品の模式図。メーカー説明書より引用

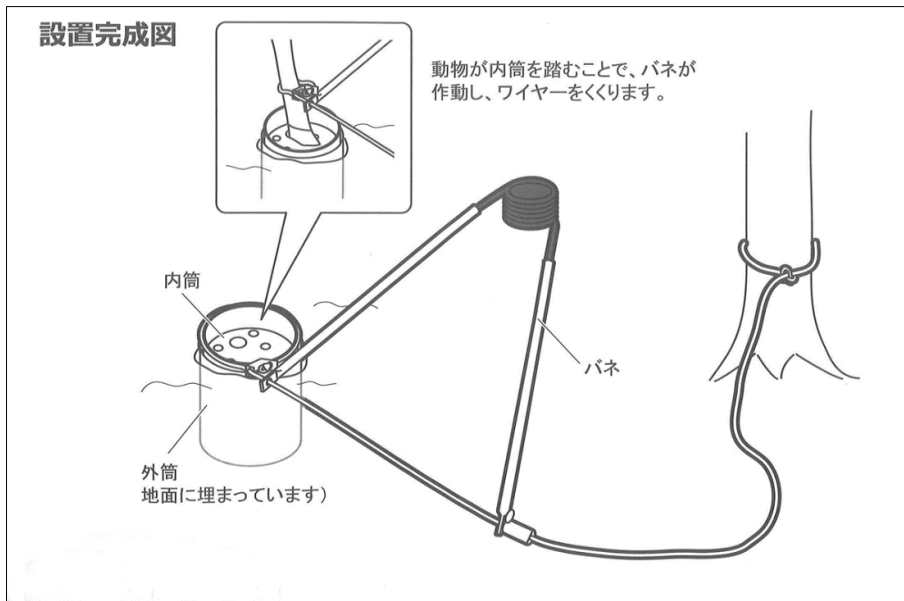


図 8. 筒式くくりわな（栄ヒルズ F type）の設置模式図。メーカー説明書より引用



図 9. 本事業で使用した筒式くくりわな（栄ヒルズ F type）



図 10. 本事業で使用した板式くくりわな（アニマルヒット 5）

3. 業務実施結果

3-1. 生息状況調査業務

令和 7(2025)年 3 月 27 日から 6 月 20 日にかけて、オシンコシン地区および春苺古丹地区に 3 台ずつ、計 6 台のカメラをのべ 394 日稼働させ、のべ 59,352 枚の画像を撮影した。

オシンコシン地区では、設置したカメラ 3 台のうち「イチイの森海側」に設置したカメラにおいてエゾシカの写り込みが最も多く、62 日間の稼働期間における撮影延べ頭数は 819 頭、このうちメス成獣は延べ 368 頭、オス成獣が延べ 21 頭であった(表 4)。同地点におけるエゾシカ全体の RAI は 13.20 で、メス成獣が 5.93、オス成獣が 0.33 であった(表 5)。画像 1 枚における最多撮影頭数も「イチイの森海側」が最も多く、9 頭だった(表 6)。もっとも撮影枚数が多かった時間帯はカメラ設置場所により異なり、オシンコシン B に設置した「イチイの森海側」では 0 時台であったが、オシンコシン C に設置した「オシンコシン崎台地」では 21 時台、「滝見橋左岸」では 17 時台であった(図 11)。当該地区では 3 地点のうち「イチイの森海側」のみにおいてヒグマの写りこみがあり、すべての地点でキツネとタヌキ、2 地点でカラス類、1 地点でヤマシギの写りこみがみられた(表 4)。また、オシンコシン地区の「滝見橋左岸」では、画面奥の法面に多数のシカが現れ、多い時で 38 頭が写りこんでいるのを確認した(表 4、表 5)。

春苺古丹地区では、設置したカメラ 3 台のうち、「春苺古丹 D」に設置したカメラにおいてエゾシカの写り込みが最も多く、69 日間の撮影延べ頭数は 600 頭、このうちメス成獣が延べ 275 頭、オス成獣が 5 頭であった(表 4)。同地点におけるエゾシカ全体の RAI は 8.70 で、メス成獣が 3.99、オス成獣が 0.07 であった(表 5)。画像 1 枚における最多撮影頭数も D 地点が最も多く、9 頭だった(表 6)。もっとも撮影頻度が高かった時間帯は、「春苺古丹 B」が 3 時台、「春苺古丹 D」では 6 時台、「春苺古丹 F」では 17 時台と、設置地点における日の出・日の入り前後の時間帯にピークを迎える場所と、そうでない場所に分かれた(図 12)。当該地区では 3 地点でヒグマの写りこみがあり、キツネも同様に 1 回以上写りこんでいた(表 4)。

両地区について 10 日おきにエゾシカの撮影枚数を集計すると、オシンコシン地区、春苺古丹地区ともに 4 月から 5 月にかけて急激に減った後、6 月までゆるやかに減少していた(図 13)。

表 4. 各カメラにおける獣種別撮影延べ頭数。稼働日数については設置日を 0 日目とし、動作不良により撮影が行われなかった期間は除外して計算した

| | オシンコシン地区 | | | 春苧古丹地区 | | |
|---------------|-------------|---------------|-------------------|------------|------------|------------|
| | イチイの森 海側 | オシンコシン 崎台地 | 滝見橋左岸 | 春苧古丹 B | 春苧古丹 D | 春苧古丹 F |
| 稼働日数(日) | 62 | 62 | 62 | 70 | 69 | 69 |
| 総撮影枚数 | 9,323 | 9,163 | 9,317 | 10,237 | 9,431 | 11,881 |
| メス成獣(頭) | 368 | 217 | 33 | 128 | 275 | 248 |
| オス成獣(頭) | 21 | 26 | 1 | 9 | 5 | 11 |
| 0歳(頭) | 83 | 9 | 4 | 6 | 37 | 13 |
| 不明シカ(頭) | 347 | 246 | 13 (法面 2, 236) | 145 | 283 | 205 |
| エゾシカ合計 | 819 | 498 | 51 | 288 | 600 | 477 |
| ヒグマ | 6 | 0 | 0 | 10 | 4 | 5 |
| キツネ | 3 | 2 | 7 | 29 | 9 | 11 |
| タヌキ | 5 | 2 | 1 | 3 | 0 | 2 |
| リス | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| ヤマシギ | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| カラス類 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |

表 5. 各カメラにおける獣種別撮影頻度 (RAI)

| | オシンコシン地区 | | | 春苧古丹地区 | | |
|---------------|--------------|---------------|--------------------|-------------|-------------|-------------|
| | イチイの森 海側 | オシンコシン 崎台地 | 滝見橋左岸 | 春苧古丹 B | 春苧古丹 D | 春苧古丹 F |
| メス成獣(頭) | 5.93 | 3.50 | 0.53 | 1.83 | 3.99 | 3.59 |
| オス成獣(頭) | 0.33 | 0.42 | 0.02 | 0.13 | 0.07 | 0.16 |
| 0歳(頭) | 1.34 | 0.15 | 0.06 | 0.09 | 0.54 | 0.19 |
| 不明シカ(頭) | 5.60 | 3.97 | 0.21 (法面 36.06) | 2.07 | 4.10 | 2.97 |
| エゾシカ合計 | 13.20 | 8.03 | 0.82 | 4.11 | 8.70 | 6.91 |
| ヒグマ | 0.10 | 0.00 | 0.00 | 0.14 | 0.06 | 0.07 |
| キツネ | 0.05 | 0.03 | 0.12 | 0.41 | 0.13 | 0.17 |
| タヌキ | 0.08 | 0.03 | 0.02 | 0.05 | 0.00 | 0.03 |
| リス | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.01 | 0.00 | 0.00 |
| ヤマシギ | 0.03 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| カラス類 | 0.08 | 0.08 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

※RAI：Relative Abundance Index、撮影頻度指数。撮影延べ頭数／カメラ稼働日数

表 6. 各カメラにおけるエゾシカの最多撮影頭数（実測値、クラス別）。「エゾシカ全体」とは、クラスを問わず、1枚の画像に写ったエゾシカの最多頭数を示す

| | オシニコシン地区 | | | 春苧古丹地区 | | |
|---------------|-------------|---------------|--------------|----------|----------|-----------|
| | イチイの森 海側 | オシニコシン 崎台地 | 滝見橋左岸 | 春苧古丹 B | 春苧古丹 D | 春苧古丹 F |
| メス成獣(頭) | 9 | 6 | 3 | 4 | 9 | 6 |
| オス成獣(頭) | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 0歳(頭) | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 不明シカ(頭) | 5 | 5 | 2 (法面 38) | 5 | 4 | 5 |
| エゾシカ全体 | 13 | 11 | 3 | 6 | 9 | 11 |

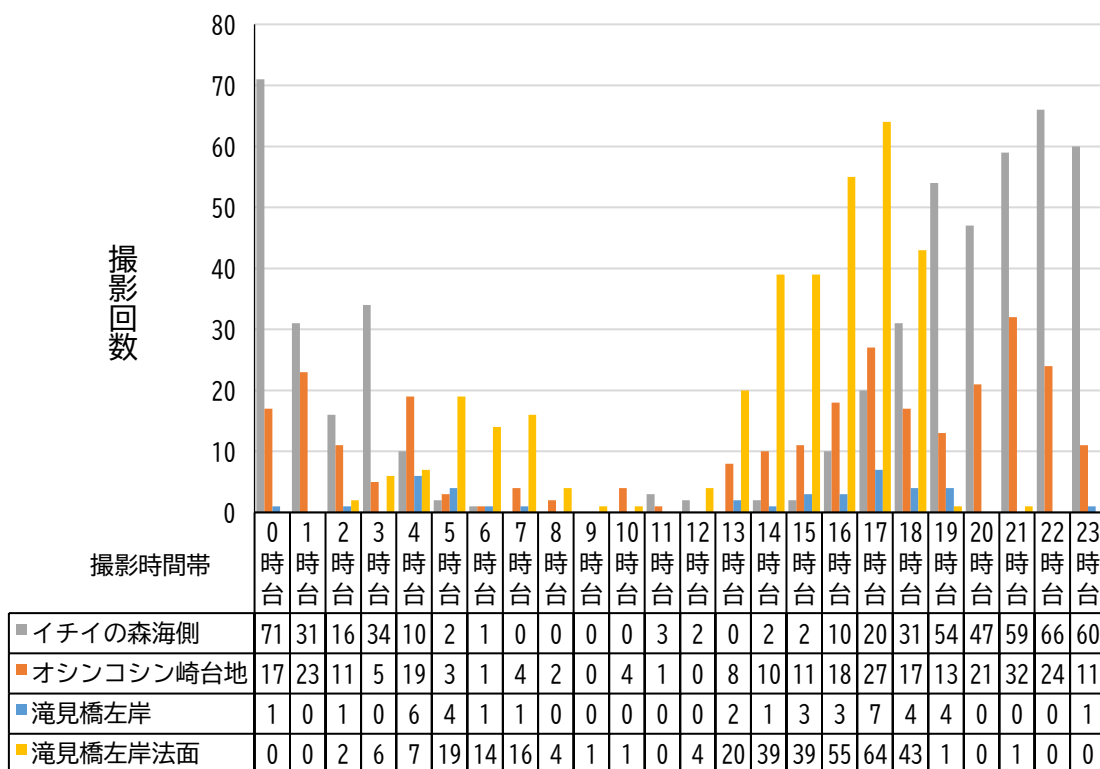


図 11. 斜里町側におけるエゾシカの時間帯別撮影回数。グラフ下の表はデータ値を示す

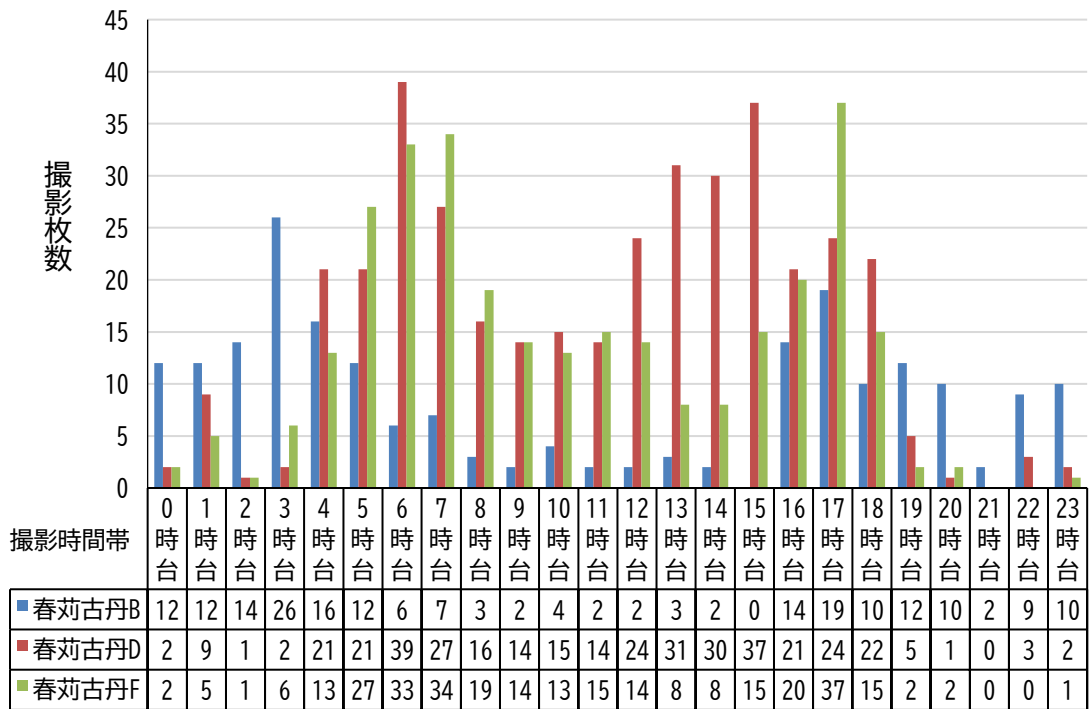


図 12. 羅臼町側におけるエゾシカの時間帯別撮影回数。グラフ下の表はデータ値を示す

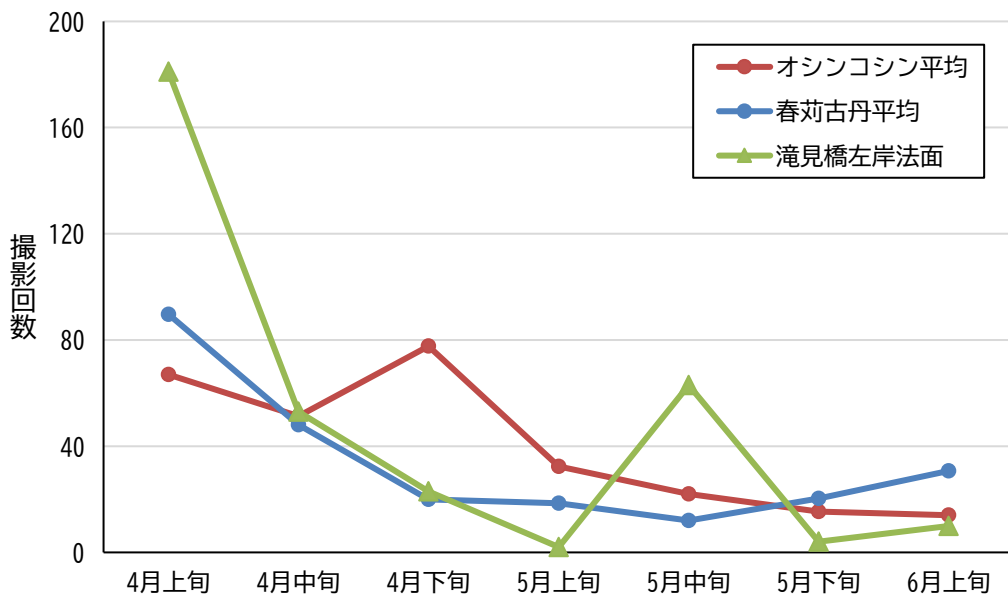


図 13. オシンコシン地区および春苺古丹地区におけるエゾシカの平均撮影回数および、オシンコシン地区「滝見橋左岸法面」における撮影回数の10日ごとの推移

3-2. エゾシカ捕獲業務

本事業では、斜里町側で 89 頭、羅臼町側で 32 頭、計 121 頭のエゾシカを捕獲した（表 7）。雌雄別の内訳はメス 60 頭、オス 61 頭であり、生息個体数を確実に減少させるために重要とされるメス成獣の捕獲数は 42 頭（34.7%）であった。各捕獲実施場所の捕獲頭数及びわなの稼働夜数（トラップナイト：TN）あたりの捕獲効率を表 8 に示した。

表 7. 本事業によるエゾシカの捕獲結果

| 捕獲実施場所 (地区) | 捕獲個体内訳 | | | | | | | 合計 |
|----------------|----------|-----|----|------|-----|-----|-----|-----|
| | メス 成獣 | 0 歳 | | オス成獣 | | | | |
| | | メス | オス | 1 尖 | 2 尖 | 3 尖 | 4 尖 | |
| オシンコシン B | 19 | 7 | 8 | 2 | 0 | 0 | 7 | 43 |
| オシンコシン C | 11 | 6 | 16 | 9 | 0 | 2 | 2 | 46 |
| 春苅古丹 | 12 | 5 | 5 | 4 | 0 | 0 | 6 | 32 |
| 合計 | 42 | 18 | 29 | 15 | 0 | 2 | 15 | 121 |

表 8. 本事業の各捕獲実施場所におけるエゾシカ捕獲頭数および捕獲効率（頭 / TN）

| 捕獲実施場所 (地区名) | 捕獲頭数 | トラップナイト (TN) | 捕獲効率 (頭 / TN) | 前年度 捕獲効率 (頭 / TN) | わな稼働期間 |
|-----------------|------|-----------------|------------------|-------------------------|-------------------------|
| オシンコシン B | 43 | 494 | 0.09 | 0.03 | 1/7~2/6 |
| オシンコシン C | 46 | 534 | 0.09 | 0.04 | 1/7~2/6 |
| 春苅古丹 | 32 | 598 | 0.05 | 0.08 | 12/19~12/25 1/6~1/23 |
| 合計 | 121 | 1,626 | 0.07 | | |

※ 1 基のわなが 1 夜（1 晩）稼働すると、1 トラップナイトとなる。

なお、前述の頭数のエゾシカを捕獲するために要した、各わなの見回り回数と給餌回数の実績値は下記のとおりである。エゾシカの誘引（給餌）に用いた圧縮マメ科牧草（ルーサンハイボール）の消費量は、計 59.5 個（斜里側 32.5 個・羅臼側 27 個）、約 1,600kg であった。

表 9. 本事業における春苺古丹の誘引のみの期間及び給餌回数の実績値

| 誘引箇所 | 誘引期間 | 見回り回数 | 給餌回数 |
|------|--------------|-------|------|
| 春苺古丹 | 12月1日～12月12日 | 4 | 4 |

※ただし、12月16日にも給餌は別途実施（誘引期間終了後から誘引捕獲期間開始前までの期間）

表 10. 本事業における各わなの見回り・給餌回数の実績値

| 設置箇所 | 誘引捕獲期間 | 見回り回数 | 給餌回数 |
|--------|-----------------------------|-------|------|
| オシンコシン | 1月7日～2月6日 | 29 | 14 |
| 春苺古丹 | 12月19日～12月25日 1月6日～1月23日 | 22 | 20 |

誘引捕獲期間中に各わな付近に設置していた自動撮影カメラへのエゾシカの写り込み状況として、旬（約10日間）ごとの最大撮影頭数を表11に示した。捕獲期間中にエゾシカが写り込んだ最大頭数は、斜里町側ではオシンコシンBで1月上旬に8頭、オシンコシンCでは1月上旬に9頭であった。羅臼町側の春苺古丹では、12月上旬・中旬の7頭が最大であった。

表 11. 各わなにおける旬ごとのエゾシカの最大撮影頭数

| 捕獲場所（地区） | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | |
|----------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| オシンコシンB | - | - | - | 8 | 7 | 3 | 6 | - | - |
| オシンコシンC | - | - | - | 9 | - | 3 | 8 | - | - |
| 春苺古丹 | 7 | 7 | 6 | 5 | 4 | 1 | - | - | - |

捕獲個体は、止めさし後に有効活用施設処理したものが92頭、利活用不適のため廃棄処理したものが3頭、利活用施設受け入れ不可のため廃棄処理したものが26頭であった。捕獲個体のカラスプレーによるマーキングの一例を図14、各捕獲個体の処理方法に関する詳細を表12に示した。



図 14. カラースプレーによるマーキングの一例 (2026 年 1 月 9 日の捕獲個体)

表 12. 捕獲個体の処理に関する記録

| 捕獲日 | 捕獲場所 (地区) | 捕獲手法 | マーキング 番号 | 個体の 属性 | 右 | 左 | 処理方法 | 処理日 | 搬出先 | 搬出日 |
|------------|--------------|-------|-------------|-----------|-------------|------|----------------|-------|---------------|-------|
| 2025/12/20 | 春苺古丹 | <<りわな | 251220R1 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/20 | 北海レンダリング協同組合 | 12/20 |
| 2025/12/20 | 春苺古丹 | <<りわな | 251220R2 | メス成獣 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/20 | 北海レンダリング協同組合 | 12/20 |
| 2025/12/21 | 春苺古丹 | <<りわな | 251221R3 | オス 4 尖 | 52.0 | 50.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/21 | 北海レンダリング協同組合 | 12/21 |
| 2025/12/21 | 春苺古丹 | <<りわな | 251221R4 | オス 4 尖 | 52.0 | 51.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/21 | 北海レンダリング協同組合 | 12/21 |
| 2025/12/22 | 春苺古丹 | <<りわな | 251222R5 | オス 4 尖 | 52.0 (参) | 52.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/22 | 北海レンダリング協同組合 | 12/22 |
| 2025/12/23 | 春苺古丹 | <<りわな | 251223R6 | オス 0 歳 | 45.0 | 45.5 | 電気止めさし 廃棄 | 12/23 | 北海レンダリング協同組合 | 12/23 |
| 2025/12/23 | 春苺古丹 | <<りわな | 251223R7 | メス成獣 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 12/23 | (株)IN-U | 12/23 |
| 2025/12/23 | 春苺古丹 | <<りわな | 251223R8 | メス成獣 | 47.5 | 47.5 | 電気止めさし 施設処理 | 12/23 | (株)IN-U | 12/23 |
| 2025/12/24 | 春苺古丹 | <<りわな | 251224R9 | オス 0 歳 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 廃棄 | 12/24 | 北海レンダリング協同組合 | 12/24 |
| 2025/12/25 | 春苺古丹 | <<りわな | 251225R10 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 12/25 | (株)IN-U | 12/25 |
| 2025/12/25 | 春苺古丹 | <<りわな | 251225R11 | メス 0 歳 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 12/25 | (株)IN-U | 12/25 |
| 2026/1/8 | 春苺古丹 | <<りわな | 260108R12 | オス 1 尖 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/8 | 北海レンダリング協同組合 | 1/8 |
| 2026/1/8 | 春苺古丹 | <<りわな | 260108R13 | メス成獣 | 48.0 | 49.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/8 | 北海レンダリング協同組合 | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン B | <<りわな | 260108B1 | メス成獣 | 48.5 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン B | <<りわな | 260108B2 | メス 0 歳 | 42.0 | 39.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン B | <<りわな | 260108B3 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン B | <<りわな | 260108B4 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン C | <<りわな | 260108C1 | メス成獣 | 46.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/8 | オシンコシン C | <<りわな | 260108C2 | メス成獣 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/8 | (株)知床エゾシカファーム | 1/8 |
| 2026/1/9 | 春苺古丹 | <<りわな | 260109R14 | メス成獣 | 48.0 | 49.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/9 | 北海レンダリング協同組合 | 1/9 |
| 2026/1/9 | 春苺古丹 | <<りわな | 260109R15 | オス 0 歳 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/9 | 北海レンダリング協同組合 | 1/9 |
| 2026/1/9 | 春苺古丹 | <<りわな | 260109R16 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.5 | 電気止めさし 廃棄 | 1/9 | 北海レンダリング協同組合 | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン C | <<りわな | 260109C1 | メス 0 歳 | 45.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン C | <<りわな | 260109C2 | オス 0 歳 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン C | <<りわな | 260109C3 | オス 0 歳 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B1 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B2 | オス 0 歳 | 43.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B3 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B4 | オス 1 尖 | 47.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B5 | メス成獣 | 50.0 | 51.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシンコシン B | <<りわな | 260109B6 | メス成獣 | 47.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |

| 捕獲日 | 捕獲場所 (地区) | 捕獲手法 | マーキング 番号 | 個体の 属性 | 右 | 左 | 処理方法 | 処理日 | 搬出先 | 搬出日 |
|-----------|--------------|-------|-------------|-----------|------|-------------|----------------|------|---------------|------|
| 2026/1/9 | オシソコシ B | <<りわな | 260109B7 | オス 0 歳 | 44.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/9 | オシソコシ B | <<りわな | 260109B8 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/9 | (株)知床エゾシカファーム | 1/9 |
| 2026/1/10 | 春苺古丹 | <<りわな | 260110R17 | オス 4 尖 | 50.0 | 50.5 | 電気止めさし 廃棄 | 1/10 | 北海レンダリング協同組合 | 1/10 |
| 2026/1/10 | 春苺古丹 | <<りわな | 260110R18 | メス 0 歳 | 44.0 | 44.5 | 電気止めさし 廃棄 | 1/10 | 北海レンダリング協同組合 | 1/10 |
| 2026/1/10 | 春苺古丹 | <<りわな | 260110R19 | メス成獣 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/10 | 北海レンダリング協同組合 | 1/10 |
| 2026/1/10 | オシソコシ B | <<りわな | 260110B1 | メス成獣 | 48.0 | 47.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/14 | 北海レンダリング協同組合 | 1/14 |
| 2026/1/11 | オシソコシ B | <<りわな | 260111B1 | メス 0 歳 | 43.0 | 42.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/14 | 北海レンダリング協同組合 | 1/14 |
| 2026/1/11 | オシソコシ B | <<りわな | 260111B2 | メス成獣 | 49.0 | 48.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/14 | 北海レンダリング協同組合 | 1/14 |
| 2026/1/12 | 春苺古丹 | <<りわな | 260112R20 | メス 0 歳 | 44.0 | 43.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/13 | 北海レンダリング協同組合 | 1/13 |
| 2026/1/12 | 春苺古丹 | <<りわな | 260112R21 | オス 4 尖 | 54.0 | 54.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/13 | 北海レンダリング協同組合 | 1/13 |
| 2026/1/12 | 春苺古丹 | <<りわな | 260112R22 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/13 | 北海レンダリング協同組合 | 1/13 |
| 2026/1/13 | 春苺古丹 | <<りわな | 260113R23 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/13 | (株)IN-U | 1/13 |
| 2026/1/13 | 春苺古丹 | <<りわな | 260113R24 | オス 0 歳 | 46.5 | 46.5 (参) | 電気止めさし 施設処理 | 1/13 | (株)IN-U | 1/13 |
| 2026/1/14 | オシソコシ B | <<りわな | 260114B1 | メス成獣 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/14 | (株)知床エゾシカファーム | 1/14 |
| 2026/1/14 | オシソコシ B | <<りわな | 260114B2 | オス 0 歳 | 45.0 | 45.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/14 | (株)知床エゾシカファーム | 1/14 |
| 2026/1/15 | オシソコシ B | <<りわな | 260115B1 | メス成獣 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/15 | (株)知床エゾシカファーム | 1/15 |
| 2026/1/15 | オシソコシ B | <<りわな | 260115B2 | メス成獣 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/15 | (株)知床エゾシカファーム | 1/15 |
| 2026/1/15 | 春苺古丹 | <<りわな | 260115R25 | オス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/15 | (株)IN-U | 1/15 |
| 2026/1/15 | 春苺古丹 | <<りわな | 260115R26 | メス 0 歳 | 43.0 | 41.0 (参) | 電気止めさし 施設処理 | 1/15 | (株)IN-U | 1/15 |
| 2026/1/15 | 春苺古丹 | <<りわな | 260115R27 | メス成獣 | 43.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/15 | (株)IN-U | 1/15 |
| 2026/1/16 | 春苺古丹 | <<りわな | 260116R28 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.5 | 電気止めさし 廃棄 | 1/16 | 北海レンダリング協同組合 | 1/16 |
| 2026/1/18 | オシソコシ B | <<りわな | 260118B1 | メス成獣 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/18 | (株)知床エゾシカファーム | 1/18 |
| 2026/1/18 | オシソコシ B | <<りわな | 260118B2 | オス 0 歳 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/18 | (株)知床エゾシカファーム | 1/18 |
| 2026/1/19 | オシソコシ B | <<りわな | 260119B1 | オス 4 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/19 | 北海レンダリング協同組合 | 1/22 |
| 2026/1/19 | オシソコシ B | <<りわな | 260119B2 | オス 4 尖 | 53.0 | 53.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/19 | 北海レンダリング協同組合 | 1/22 |
| 2026/1/19 | 春苺古丹 | <<りわな | 260119R29 | オス 4 尖 | 52.0 | 52.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/19 | 北海レンダリング協同組合 | 1/21 |
| 2026/1/19 | 春苺古丹 | <<りわな | 260119R30 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/19 | 北海レンダリング協同組合 | 1/21 |
| 2026/1/19 | 春苺古丹 | <<りわな | 260119R31 | メス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/19 | 北海レンダリング協同組合 | 1/21 |
| 2026/1/20 | オシソコシ B | <<りわな | 260120B1 | メス成獣 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/20 | (株)知床エゾシカファーム | 1/20 |
| 2026/1/20 | オシソコシ B | <<りわな | 260120B2 | オス 4 尖 | 52.0 | 52.5 | 電気止めさし 施設処理 | 1/20 | (株)知床エゾシカファーム | 1/20 |
| 2026/1/20 | オシソコシ C | <<りわな | 260120C1 | オス 3 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/20 | (株)知床エゾシカファーム | 1/20 |
| 2026/1/20 | オシソコシ C | <<りわな | 260120C2 | オス 0 歳 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/20 | (株)知床エゾシカファーム | 1/20 |

| 捕獲日 | 捕獲場所 (地区) | 捕獲手法 | マーキング 番号 | 個体の 属性 | 右 | 左 | 処理方法 | 処理日 | 搬出先 | 搬出日 |
|------------|--------------|-------|-------------|-----------|------|------|----------------|------|---------------|------|
| 2026/1/20 | オシンコシン C | <<りわな | 260120C3 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/20 | (株)知床エゾシカファーム | 1/20 |
| 2026/1/21 | オシンコシン C | <<りわな | 260121C1 | メス成獣 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/21 | (株)知床エゾシカファーム | 1/21 |
| 2026/1/21 | オシンコシン C | <<りわな | 260121C2 | オス 1 尖 | 41.0 | 41.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/21 | (株)知床エゾシカファーム | 1/21 |
| 2026/1/21 | オシンコシン C | <<りわな | 260121C3 | オス 4 尖 | 50.5 | 50.5 | 電気止めさし 施設処理 | 1/21 | (株)知床エゾシカファーム | 1/21 |
| 2026/1/21 | オシンコシン C | <<りわな | 260121C4 | メス成獣 | 45.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/21 | (株)知床エゾシカファーム | 1/21 |
| 2026/1/21 | オシンコシン C | <<りわな | 260121C5 | オス 0 歳 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/21 | (株)知床エゾシカファーム | 1/21 |
| 2026/1/21 | 春荊古丹 | <<りわな | 260121R32 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/21 | 北海レンダリング協同組合 | 1/21 |
| 2026/1/22 | オシンコシン B | <<りわな | 260122B1 | オス 1 尖 | 40.0 | 40.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/22 | オシンコシン C | <<りわな | 260122C1 | メス成獣 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/22 | オシンコシン C | <<りわな | 260122C2 | オス 1 尖 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/22 | オシンコシン C | <<りわな | 260122C3 | オス 1 尖 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/22 | オシンコシン C | <<りわな | 260122C4 | オス 0 歳 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/22 | オシンコシン C | <<りわな | 260122C5 | メス 0 歳 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/22 | (株)知床エゾシカファーム | 1/22 |
| 2026/1/23 | オシンコシン B | <<りわな | 260123B1 | オス 4 尖 | 52.0 | 52.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン B | <<りわな | 260123B2 | メス成獣 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン B | <<りわな | 260123B3 | オス 0 歳 | 40.0 | 40.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン C | <<りわな | 260123C1 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン C | <<りわな | 260123C2 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン C | <<りわな | 260123C3 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン C | <<りわな | 260123C4 | オス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/23 | オシンコシン C | <<りわな | 260123C5 | メス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/23 | (株)知床エゾシカファーム | 1/23 |
| 2026/1/24 | オシンコシン B | <<りわな | 260124B1 | オス 4 尖 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/1/24 | オシンコシン B | <<りわな | 260124B2 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/1/24 | オシンコシン C | <<りわな | 260124C1 | オス 1 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/1/24 | オシンコシン C | <<りわな | 260124C2 | オス 4 尖 | 52.0 | 52.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/1/24 | オシンコシン C | <<りわな | 260124C3 | オス 0 歳 | 45.0 | 45.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/1/24 | オシンコシン C | <<りわな | 260124C4 | オス 0 歳 | 46.0 | 46.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/01/24 | オシンコシン C | <<りわな | 260124C5 | オス 3 尖 | 51.0 | 51.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/24 | (株)知床エゾシカファーム | 1/24 |
| 2026/01/25 | オシンコシン C | <<りわな | 260125C1 | メス成獣 | 43.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/25 | (株)知床エゾシカファーム | 1/25 |
| 2026/01/25 | オシンコシン C | <<りわな | 260125C2 | オス 1 尖 | 49.0 | 49.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/25 | (株)知床エゾシカファーム | 1/25 |
| 2026/01/25 | オシンコシン C | <<りわな | 260125C3 | メス成獣 | 51.0 | 51.0 | 電気止めさし 廃棄 | 1/25 | 北海レンダリング協同組合 | 2/12 |
| 2026/01/26 | オシンコシン B | <<りわな | 260126B1 | オス 4 尖 | 50.0 | 50.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |

| 捕獲日 | 捕獲場所 (地区) | 捕獲手法 | マーキング 番号 | 個体の 属性 | 右 | 左 | 処理方法 | 処理日 | 搬出先 | 搬出日 |
|------------|--------------|-------|-------------|-----------|------|------|----------------|------|---------------|------|
| 2026/01/26 | オシンコシン C | <<りわな | 260126C1 | メス 0 歳 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |
| 2026/01/26 | オシンコシン C | <<りわな | 260126C2 | メス成獣 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |
| 2026/01/26 | オシンコシン C | <<りわな | 260126C3 | オス 0 歳 | 45.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |
| 2026/01/26 | オシンコシン C | <<りわな | 260126C4 | メス成獣 | 50.0 | 50.5 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |
| 2026/01/26 | オシンコシン C | <<りわな | 260126C5 | オス 0 歳 | 42.5 | 42.5 | 電気止めさし 施設処理 | 1/26 | (株)知床エゾシカファーム | 1/26 |
| 2026/01/27 | オシンコシン B | <<りわな | 260127B1 | メス 0 歳 | 39.0 | 39.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/27 | オシンコシン B | <<りわな | 260127B2 | オス 1 尖 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/27 | オシンコシン B | <<りわな | 260127B3 | オス 4 尖 | 51.0 | 51.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/27 | オシンコシン B | <<りわな | 260127B4 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/27 | オシンコシン C | <<りわな | 260127C1 | オス 0 歳 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/27 | オシンコシン C | <<りわな | 260127C2 | メス 0 歳 | 41.0 | 41.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/27 | (株)知床エゾシカファーム | 1/27 |
| 2026/01/28 | オシンコシン B | <<りわな | 260128B1 | オス 0 歳 | 47.0 | 47.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/28 | (株)知床エゾシカファーム | 1/28 |
| 2026/01/28 | オシンコシン B | <<りわな | 260128B2 | メス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/28 | (株)知床エゾシカファーム | 1/28 |
| 2026/01/28 | オシンコシン C | <<りわな | 260128C1 | オス 0 歳 | 44.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/28 | (株)知床エゾシカファーム | 1/28 |
| 2026/01/30 | オシンコシン B | <<りわな | 260130B1 | オス 0 歳 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 1/30 | (株)知床エゾシカファーム | 1/30 |
| 2026/02/03 | オシンコシン C | <<りわな | 260203C1 | オス 4 尖 | 53.0 | 53.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/3 | (株)知床エゾシカファーム | 2/3 |
| 2026/02/03 | オシンコシン C | <<りわな | 260203C2 | メス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/3 | (株)知床エゾシカファーム | 2/3 |
| 2026/02/03 | オシンコシン C | <<りわな | 260203C3 | メス成獣 | 48.0 | 48.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/3 | (株)知床エゾシカファーム | 2/3 |
| 2026/02/04 | オシンコシン C | <<りわな | 260204C1 | メス成獣 | 47.0 | 45.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/4 | (株)知床エゾシカファーム | 2/4 |
| 2026/02/05 | オシンコシン B | <<りわな | 260205B1 | メス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/5 | (株)知床エゾシカファーム | 2/5 |
| 2026/02/05 | オシンコシン C | <<りわな | 260205C1 | オス 0 歳 | 45.0 | 45.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/5 | (株)知床エゾシカファーム | 2/5 |
| 2026/02/05 | オシンコシン C | <<りわな | 260205C2 | オス 0 歳 | 44.0 | 44.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/5 | (株)知床エゾシカファーム | 2/5 |
| 2026/02/05 | オシンコシン C | <<りわな | 260205C3 | メス成獣 | 45.0 | 45.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/5 | (株)知床エゾシカファーム | 2/5 |
| 2026/02/06 | オシンコシン B | <<りわな | 260206B1 | メス 0 歳 | 43.0 | 43.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/6 | (株)知床エゾシカファーム | 2/6 |
| 2026/02/06 | オシンコシン B | <<りわな | 260206B2 | メス成獣 | 51.0 | 51.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/6 | (株)知床エゾシカファーム | 2/6 |
| 2026/02/06 | オシンコシン B | <<りわな | 260206B3 | オス 0 歳 | 42.0 | 42.0 | 電気止めさし 施設処理 | 2/6 | (株)知床エゾシカファーム | 2/6 |

4. 考察

4-1. 越冬期間外のエゾシカの生息状況について

本事業では、今後の効率的な捕獲期間等の検討資料とするため、当該地域において自動撮影カメラを設置し、越冬期間外（捕獲期間外）のエゾシカの生息状況を調査した。その結果、自動撮影カメラを設置した 6 地点のすべてでエゾシカの出現が確認され、越冬期間外においても当該地区は一定数のエゾシカによる利用があることが明らかとなった。

本事業で実施した生息状況の調査結果では、カメラの設置期間におけるエゾシカの活動時間は日没前後から日の出前後にかけての薄暮時～深夜であり、銃器による捕獲は現実的ではない。またオシンコシン C を除き、ヒグマの活動が確認されており、捕獲個体がヒグマを誘引しうるため、くくりわなによる捕獲についても実施は困難であると見込まれる。この期間に捕獲を試みる場合は、囲いわなのように作業員の監視下で捕獲から回収まで完結する捕獲手法について検討が必要である。オシンコシン地区および春苺古丹地区には過去の捕獲事業において使用された囲いわなが撤去されずに残されているため、誘引等の実験を行うことは有効であると考えられる。

また撮影されたシカの多くはカメラ付近で採食しており、伸長成長中の栄養価の高い草本が誘引物となっていることが考えられ、時期が後になるほど牧草等の乾燥餌の誘引能力が下がると予想されることから、時期の設定や別の誘引餌についても検討が必要である。

今回、カメラ設定を 10 分おきのタイムラプスにしたことで、オシンコシン地区と春苺古丹地区において、撮影回数が 4 月から 5 月にかけて減少する現象が確認された。このことは、カメラの設置場所付近で滞留する個体が減ったことを意味しており、すなわち林道周辺で長く活動する個体が減ったことを示唆している。したがって、捕獲を実施する場合は効率性を考慮し、極力早期に終了する必要があると言える。

4-2. くくりわなについて、より効果的に捕獲を行うための課題と解決策

わな見回りや誘引状況の確認の実施体制について

本事業では、効率的にくくりわなを稼働させるため、監督職員と協議のうえ、わなの見回りを原則として毎日実施した。

エゾシカを誘引餌によって効率良く誘引して捕獲を実施するためには、エゾシカの誘引状況や積雪状況を毎日確認しつつ、捕獲場所に設置した誘引餌をできるだけ切らさないようにすることや、わなを適切な場所にこまめに移設することが重要である。しかし、業務仕様書に記載された捕獲期間と見回り等の回数は、捕獲期間中にくくりわなを週休 2 日で稼働させることを想定した回数となっており、その場合は誘引餌によるエゾシカの誘引効果が途切れてしまう可能性がある。また、くくりわなを毎日稼働させた場合は 1 週間あたりの捕獲機会が 7TN であるのに対し、週休 2 日で稼働させた場合は 4 TN に減少してしま

うことに加え、毎週わなを停止・再稼働させる労力が追加的に必要となるため効率的ではない。今後も冬期のくくりわな捕獲事業では効率良く捕獲を実施するため、捕獲作業の実施期間中には原則としてわなの見回り誘引状況の確認を毎日実施するよう、見回り回数などを設定することが望ましい。

シカの誘引効果の推移と持続期間について

春苅古丹地区では、誘引期間の終了直後に発生したかかり木（後述）によって、通行ができなくなり「誘引捕獲作業」ができない地域が発生した。このため、当該地域に設置された4基中3基のカメラ（設置場所はD・F・G、図5）については、誘引期間後、わなによる攪乱や誘引餌の追加が行われず、シカの誘引状況の経時的な推移を約40日間にわたり記録することとなった。

かかり木が発生する前に行われた給餌は12月1日、4日、6日、10日の4回で、シカの写りこみ回数は給餌当日かその翌日にピークに達した。給餌の間隔が1日の場合は写りこみ回数が増加する場合もあったが、間隔が2日以上の場合は、いずれも給餌後3日目に写りこみ回数が減少した。一方でかかり木の発生後、餌がまかれていないにもかかわらずシカの写りこみが前日より増える現象がD地点やG地点で複数回起きており、給餌に対するシカの学習の効果である可能性もあるが、詳細については不明である。

いずれにせよ、誘引効果を継続させるには、給餌の間隔は1日から2日程度にとどめることが適切と言える。

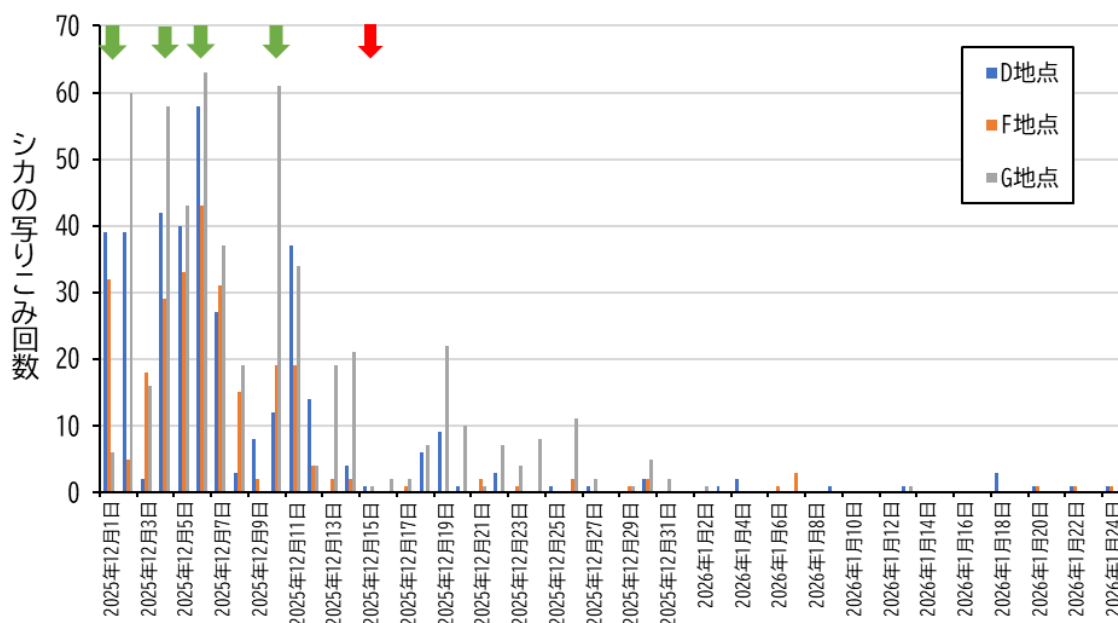


図15. 春苅古丹地区の通行止め地点以奥の捕獲地点カメラにシカが写りこんだ回数。緑の矢印は給餌の実施日を、赤の矢印はかかり木の発生日を示す

4-3. 次年度以降の捕獲計画に関する課題、提案

シカの誘引の度合いと推定される要因について

本事業では、オシンコシン地区におけるシカの捕獲効率が前年に比較して2倍以上に向上しており、捕獲期間中、見回り1回当たりの捕獲頭数は3.06頭(89頭/29回)で、前年の平均1.61頭(53頭/33回)の2倍近い値となった。また羅臼地区においても、後述する事情から捕獲場所の数が例年の4~5か所に対し2か所、さらに捕獲地点の変更ができない状態だったにもかかわらず、見回り1回あたりの捕獲頭数は1.52頭(32頭/21回)で前年の1.45頭(42頭/29回)と同等の数値であった。

一方でわなの設置基数の増加状況は、斜里町側では40基⇒46基の15%増、羅臼町側では20基⇒26基の30%増であり、設置基数の増加のみでは1回あたりの捕獲頭数増加のすべてを説明できない。さらに特筆すべき点として、春苺古丹地区では後述するかかり木の発生によって捕獲可能な範囲が大きく制限された結果、通常であれば4~5か所に4~6基程度のわなを設置稼働させていたところ、本事業では1か所当たり8~16基、平年の2~3倍という高密度での運用となった。わなの設置密度の増加はシカの捕獲可能性を高める一方で警戒心を強める可能性があるが、捕獲期間中にシカの来訪はほぼ途切れずに続いた。このことは、シカが誘引される度合いが例年より大きかった、すなわち自然環境下で利用可能な餌が少なく誘引餌への依存度が高かった可能性を示唆する。

シカが自然環境下で餌を利用できない状況には、餌資源の量に年ごとの豊凶がある場合と、シカが餌資源にアクセスできなくなる場合の二通りが考えられる。過去の事業の報告書や本事業における捕獲場所周辺の観察結果から、前者はミズナラ堅果の凶作、後者は雪の「ざらめ雪化」に伴う採餌効率の低下を挙げることができる。

ミズナラ堅果の豊凶については知床世界自然遺産地域科学委員会のヒグマワーキンググループ会議が毎年知床半島のミズナラについて、統計解析結果を資料として公開している。2025年度第2回会議資料では、知床半島、特に斜里町側のミズナラは2020年以降、2年周期で豊作と凶作を繰り返しており、2025年は2024年と比較して有意に減少したとされた。羅臼町側は明確な豊凶のサイクルは確認されなかったものの、継続して低調とされた。このことは、2025年の秋から冬にかけて、両捕獲地域周辺でシカが利用可能な餌資源の質が2024年と比較して低かったことを意味しており、捕獲開始時点でシカの栄養状態が悪かったことを示唆する。

また捕獲場所付近には気象庁アメダス(地域気象観測システム)が設置されており、オシンコシン地区は約4km東にある「宇登呂」観測所、春苺古丹地区は約11km北東にある「羅臼」観測所のデータを使用可能である。令和7(2025)年12月から令和8(2026)年1月の気温および降水量・最深積雪の記録によると、オシンコシン地区・羅臼地区ともに12月に最高気温が氷点下を上回る日が複数回発生していた(図16)。そのうち1回以上は降水を伴い、翌日に氷点下に低下していた。これによって雪が融解と再凍結を繰り返し、雪の粒子が荒く硬くなったクラストを形成する、いわゆる「ざらめ雪」が発生し、シカに

よる「雪の掘り返しと餌探索」が困難になったと推測される。特に宇登呂では12月中旬以降に最深積雪が80 cmに達した後に20～40 cmほど増減を繰り返しており、ササや枯草などの栄養価の低い餌も利用しにくくなった可能性がある。

ミズナラ堅果が豊作であり、雪が少ない、または掘り返しやすいという条件がそろえば、シカは冬でも容易かつ安全に栄養価の高い餌資源を利用することができる。ミズナラが豊作年であった2024年秋の後に捕獲を実施した「知床地区エゾシカ捕獲緊急対策事業（管理型捕獲）」報告書では、捕獲期間中もミズナラ堅果の食痕を確認した旨の記載があり、上記の内容を支持する。この時、シカにとって牧草等の餌は「わなによる捕獲」というリスクを伴うため、相対的に誘引効果は下がると推測できる。一方で、ミズナラ堅果が凶作な場合、または豊作であっても今冬のように利用しづらい状況下においては、牧草の誘引効果は相対的に上がることが期待できる。

しかしながら、過去10年間の気象記録を参照する限り、12月において最高気温が氷点を上回った回数は年によって異なるものの、あまり大きくは変化しておらず経年的な増加や減少の傾向も明確ではないため、「雪の量」「雪の掘り返しやすさ」については事前の予測が難しい（表13）。ミズナラ堅果の豊凶についても、その年の状況は結実が確定する8月上旬ごろまで待つ必要がある。捕獲効率を向上させるためには上記の状況に応じて捕獲計画を定めることが望ましいが、それができない場合は、牧草等の誘引効果が低い状態を前提とした計画とする必要がある。

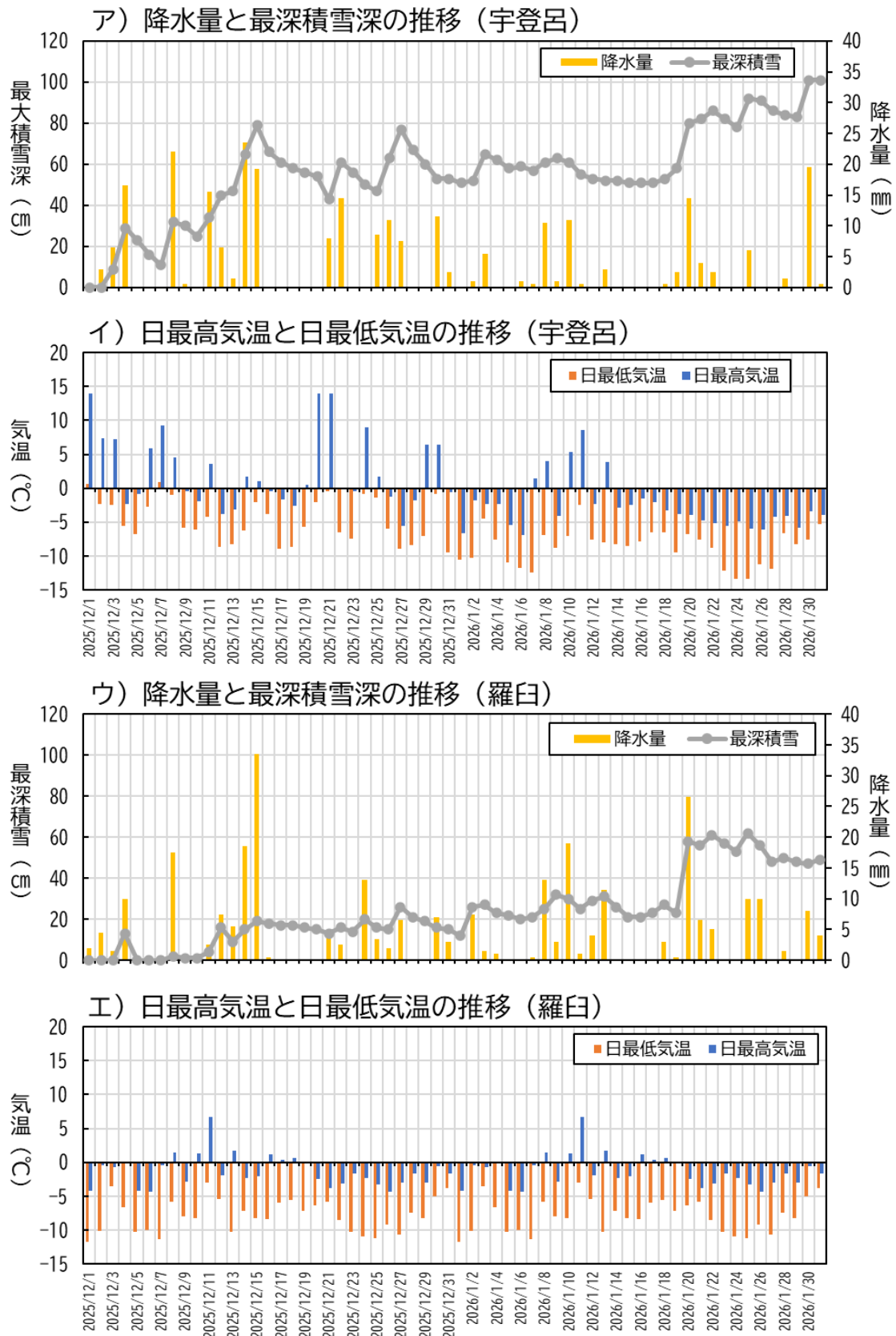


図 16. 地方観測所「宇登呂」及び「羅臼」における、日最高・最低気温、最深積雪および降水量の推移

表 13. 過去 10 年間の 12 月における「最高気温が氷点以上であった日」の数。観測値はそれぞれ地方観測所「宇登呂」及び「羅臼」のもの

| 年 | 宇登呂 (12 月) | 羅臼 (12 月) |
|------|------------|-----------|
| 2016 | 13 | 17 |
| 2017 | 13 | 18 |
| 2018 | 13 | 21 |
| 2019 | 13 | 17 |
| 2020 | 12 | 17 |
| 2021 | 20 | 21 |
| 2022 | 17 | 20 |
| 2023 | 12 | 17 |
| 2024 | 9 | 14 |
| 2025 | 17 | 17 |

捕獲個体の処理について

本事業によるエゾシカの捕獲個体 121 頭のうち、有効活用できたのは斜里町側 83 頭、羅臼側 9 頭の 92 頭 (76.0%) であり、廃棄処分は 29 頭 (24.0%) であった (表 14)。これは、前年度の有効活用 58 頭 (斜里町側 52 頭、羅臼側 6 頭)、廃棄 37 頭と比較すると大きく改善した。この結果は、おもにオシンコシン地区における有効活用頭数が増加したことにより、全体に占める有効活用の割合が増加したものである。

しかし、捕獲結果で触れたように、特にオシンコシン地区では捕獲効率が 2 倍以上に上昇したことで有効活用施設にかかる処理負担も同様に増加した。施設における捕獲個体の処理能力は予め決まっているため、搬入する捕獲個体の数が施設の処理能力を上回る事態に伴い施設側が捕獲個体の受入停止措置をとったことにより、狩猟捕獲した個体を施設に搬入している地元狩猟者との利害対立も懸念された。

野生動物の捕獲個体を食肉として流通させるには感染症の対策等を適切に行う必要があり、止め刺しを行った場合は放血から内臓の摘出、処理施設の搬入まで、ガイドラインに沿った適切な処置を時間制限の中で行う必要がある。くくりわなのように、捕獲後の生体搬出が不可能な捕獲手法では、捕獲効率が上昇するほど一定時間内に処理すべき頭数が増加する。そのため、処理施設の受入状況によっては「止め刺しと搬出のペースを落とす」「作業開始を午後からに限定する」など、作業時間の増大やスケジュールの遅延を招く状況も発生した。

斜里町の有効活用施設ではエゾシカの畜養施設を備えているため、こういった有効活用施設の受入状況も踏まえ、捕獲頭数が多い場合は、捕獲個体の円滑な有効活用を促すため生体での搬出が可能な囲いわなが好ましい。斜里町側・羅臼町側ともに、囲いわなは捕獲事業の開始当初に導入されたのち、捕獲効率の悪化から使用されなくなったという経緯がある。しかし前述のとおり、今冬のようにシカが餌によく誘引されている場合には有効で

ある可能性があり、羅臼町の捕獲個体を斜里町の処理施設に搬入することも可能なため、状況に応じて適切な時期に捕獲手法の切り替えを行うことで、有効活用割合をさらに向上させることが期待できる。今後は知見の蓄積を目的とし、囲いわな内部や周辺への誘引を試行的に再開することが望ましい。

表 14. 本事業における捕獲個体の処理方法（町別）

| | 斜里町側 | | 羅臼町側 | | 計 | |
|-----|------|------|------|------|-----|------|
| | 頭数 | % | 頭数 | % | 頭数 | % |
| 利活用 | 83 | 93.3 | 9 | 28.1 | 92 | 76.0 |
| 廃棄 | 6 | 6.7 | 23 | 71.9 | 29 | 24.0 |
| 合計 | 89 | | 32 | | 121 | |

作業経路の整備について

誘引期間及び誘引捕獲期間において、斜里町側では路面の凍結、羅臼町側ではかかり木の発生により、捕獲実施場所の一部について一部期間又は全期間、アクセスできない状況が発生した。

斜里町側のオシンコシン地区では、1月10日に最高気温が氷点下を上回り、降雨が発生した。これにより、オシンコシン B、オシンコシン C ともに、アクセスルートである町道がアイスバーン（氷盤路）となった（図 17）。特にオシンコシン C では、海岸沿いの国道からオシンコシン展望台まで斜面沿いの町道（区間標高差：約 90m、区間延長距離：約 1.5km、平均斜度：約 6 度）を走行する必要があるため、さらにスノーモービルを積んだトレーラーをけん引する必要があったことから、現場に向かう事故の発生リスクを考慮してアイスバーンが解消するまでの期間、オシンコシン C での捕獲を中止した。アイスバーンではスノーモービルの通行は困難であるため、今後はアイスバーンによるアクセス経路の分断も前提とした機材の導入や、リスクの少ない運用を計画する必要がある。

羅臼町側の春苺古丹地区では、令和 7（2025）年 12 月 15 日に発生した暴風雪の影響により、春苺古丹林道の入口から約 800m の位置にある坂道付近で発生した林道上に複数の倒木およびかかり木を確認した（図 18）。当該箇所において、事故防止の観点からかかり木直下の通過は安全に支障をきたすと判断されたため、わなの設置場所はかかり木の発生地点より手前のみ限定した。

冬期は気圧配置の関係から天候が荒れることが多く、過去の事業においても同じ時期にかかり木や倒木が発生し、捕獲作業時に使用する林道が分断される事態がしばしば発生している。捕獲は地区内のシカの利用状況に応じて行うため、捕獲可能な範囲が著しく狭まった場合や今回のように捕獲に好適な条件がそろっていない場合は事業の目的を達成できないことが懸念される。全域の林道脇の雑木については適切な予防対策を実施できるよう、現場の状況を事業者と担当官との間で早期に共有することが望ましい。

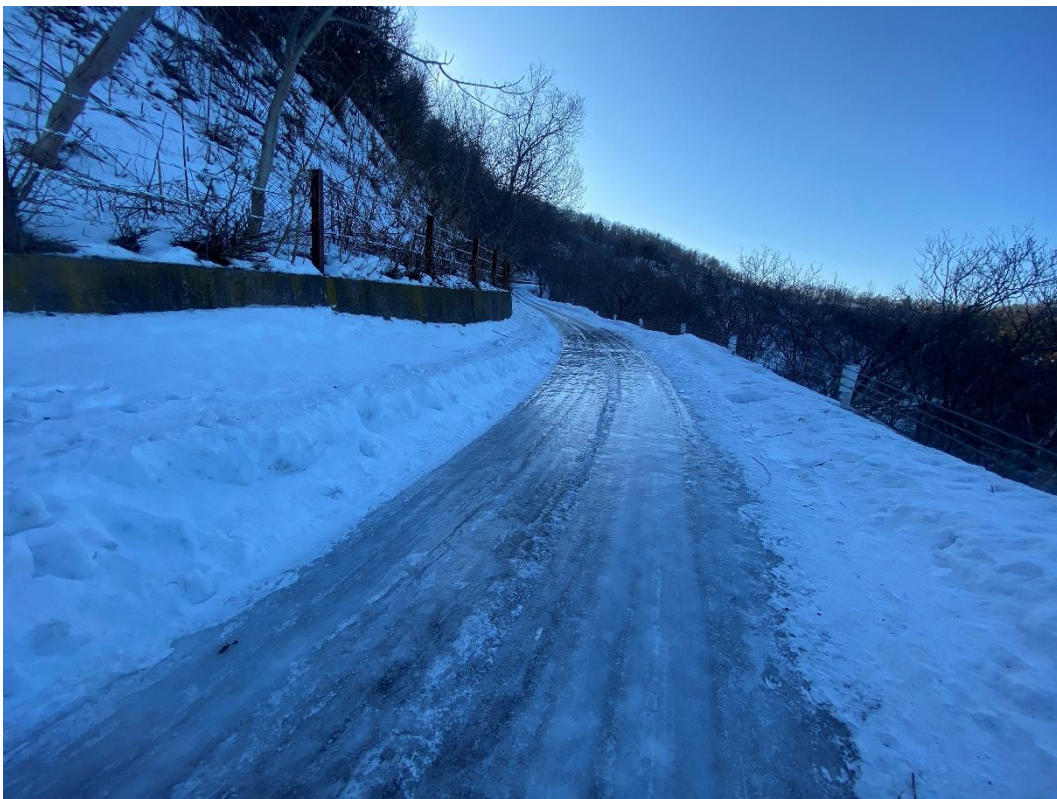


図 17. オシンコシン展望台へ向かう町道で発生したアイスバーン（2026年1月15日撮影）



図 18. 春苅古丹林道で発生したかかり木（2025年12月16日撮影）

参考文献

- 北海道森林管理局 2011. 平成 22 年度保護林等整備・保全対策事業（囲いわなによるエゾシカの捕獲）報告書. 株式会社 北雄組, 13pp.
- 北海道森林管理局 2012. 平成 23 年度世界遺産保全緊急対策事業（囲いわなによるエゾシカの捕獲）報告書. 知床財団, 21pp.
- 北海道森林管理局 2013. 知床世界自然遺産隣接地域における囲いわなによるエゾシカの生体捕獲事業報告書. 公益財団法人 知床財団, 51pp.
- 環境省 2016. 平成 27 年度知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務報告書. 公益財団法人 知床財団, 38pp.
- 北海道森林管理局 2016. 平成 27 年度斜里町ウトロ地区エゾシカ捕獲事業 報告書. 公益財団法人 知床財団, 87pp.
- 北海道森林管理局 2016. 平成 27 年度斜里町真鯉地区エゾシカ捕獲事業 報告書. 公益財団法人 知床財団, 85pp.
- 北海道森林管理局 2017. 平成 28 年度斜里町内国有林エゾシカ捕獲等事業（囲いわな等）第 2 号 報告書. 公益財団法人 知床財団, 228pp.
- 北海道森林管理局 2018. 平成 29 年度知床におけるエゾシカ捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 222pp.
- 北海道森林管理局 2018. 網走管内国有林エゾシカ誘引捕獲事業（平成 30 年度春季囲いわな） 報告書. 公益財団法人 知床財団, 40pp.
- 北海道森林管理局 2019. 平成 30 年度知床におけるエゾシカ捕獲等業務（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 66pp.
- 北海道森林管理局 2020. 令和元年度知床におけるエゾシカ誘引捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 38pp.
- 北海道森林管理局 2021. 令和 2 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（囲いわな等）報告書. 公益財団法人 知床財団, 37pp.
- 北海道森林管理局 2022. 令和 3 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等） 報告書. 公益財団法人 知床財団, 31pp.
- 北海道森林管理局 2023. 令和 4 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等） 報告書. 公益財団法人 知床財団, 32pp.
- 北海道森林管理局 2024. 令和 5 年度知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業（くくりわな等） 報告書. 公益財団法人 知床財団, 33pp.
- 北海道森林管理局 2025. 知床地区エゾシカ捕獲緊急対策事業（管理型捕獲） 報告書. 公益財団法人 知床財団, 35pp.

作業実施状況等の記録写真（抜粋）

斜里町オシンコシン地区側



生息状況調査用自動撮影カメラの設置作業（2025年4月4日）



くくりわなの設置作業（2026年1月7日）



発砲禁止の幟の設置（2026年1月7日）



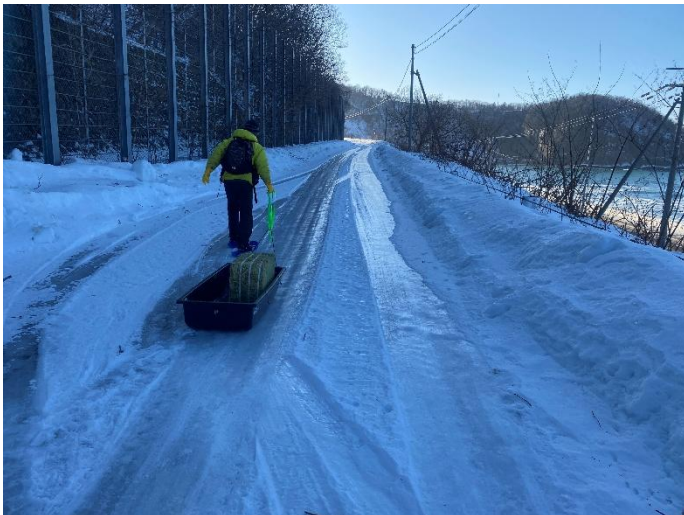
注意書き設置作業（2026年1月17日）



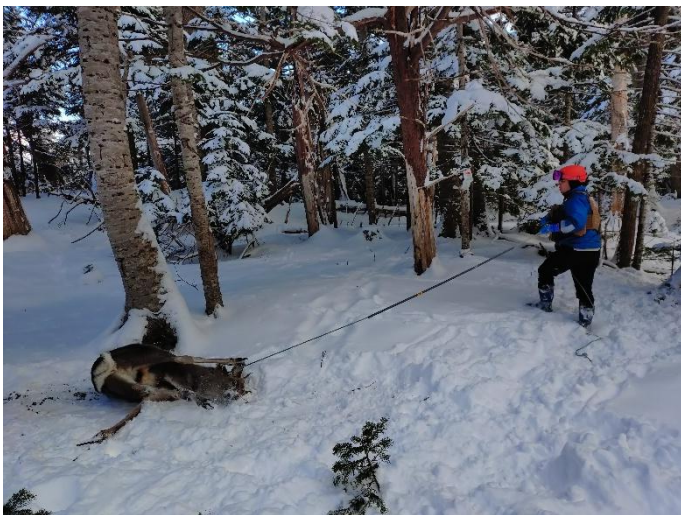
くくりわなの点検作業（2026年1月28日）



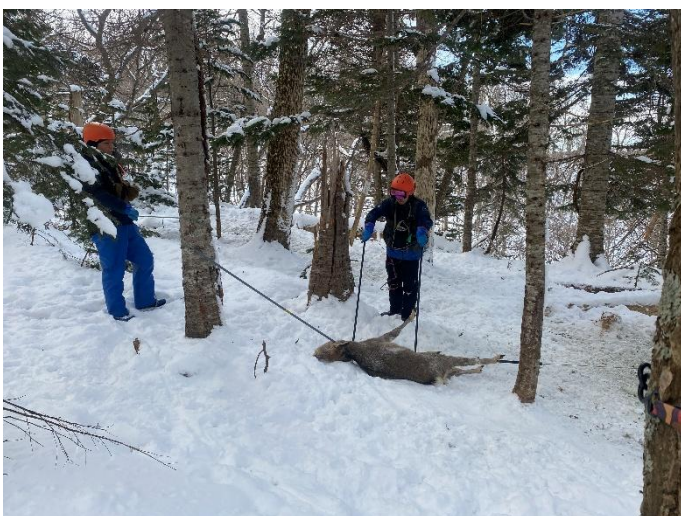
くくりわなの給餌作業（2026年1月21日）



アイスバーン路面発生に伴う徒歩による誘引餌運搬作業（2026年1月15日）



捕獲個体の保定作業（2026年1月21日）



電気止め刺し機による捕獲個体の止め刺し作業（2026年1月27日）



捕獲個体のマーキング後（2026年1月22日）



捕獲個体の搬出作業（2026年1月26日）



廃棄処理施設への搬入作業（2026年1月23日）

○羅臼町春苧古丹地区側



生息状況調査用自動撮影カメラの設置作業（2025年3月27日）



誘引給餌作業（2025年12月4日）



通行止め看板・バリケードの設置（2025年12月4日）



くくりわなの設置作業（2025年12月20日）



くくりわなの給餌作業（2025年12月21日）



捕獲個体の保定作業（2026年1月9日）



電気止め刺し機による捕獲個体の止め刺し作業（2026年1月9日）



廃棄処理施設への搬入作業（2025年12月20日）



有効活用施設への引き渡し作業（2025年12月25日）

林野庁 北海道森林管理局 委託事業

事業名：斜里・羅臼地区エゾシカ誘引捕獲森林被害緊急対策事業（管理型捕獲）

事業期間：令和 7（2025）年 3 月 13 日 ～ 令和 8（2026）年 3 月 6 日

事業実施者（受託者）：公益財団法人 知床財団

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別 531

知床自然センター内



リサイクル適性の表示：印刷用の紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [A ランク] のみを用いて作成しています。